



彼女が  
声を殺して  
泣いている



自らを  
恥じて

自らを  
責めて

ただ一人  
心を捧げて  
愛した  
美しい面影

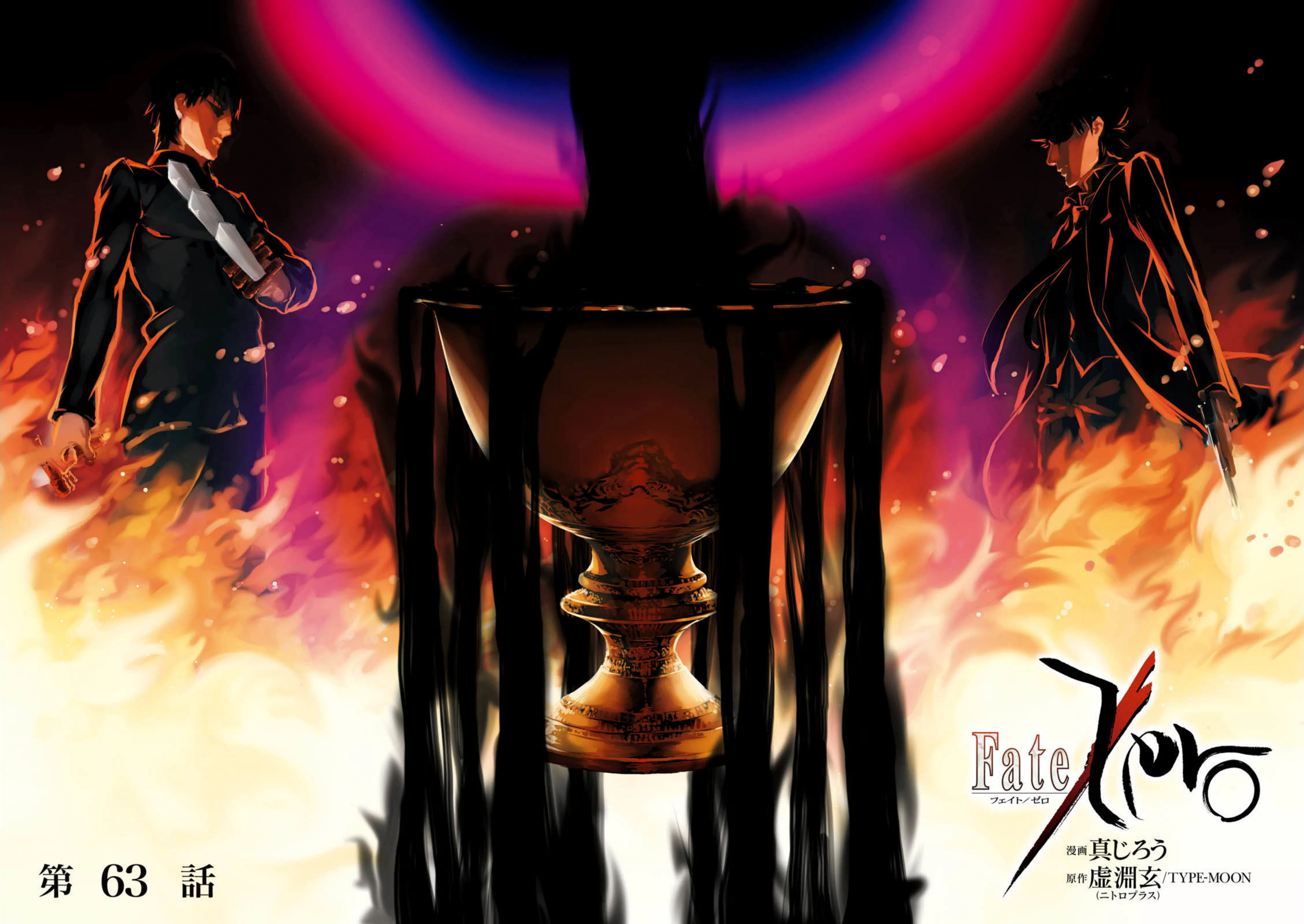
誰もが彼女を  
指差して言う

なのに彼女について  
思い出せるのは  
苦悩と憂いの涙だけ

不貞の妻  
裏切りの  
王妃と

そう 私もまた彼女を悲しませ 愛してしまったのだ  
アーサー王の妻——王妃ギネヴィアを





第 63 話

Fate **Zero**  
フェイト/ゼロ  
漫画 真じろう  
原作 虚淵玄 / TYPE-MOON  
(ニトロプラス)



Fate  
フェイト/ゼロ



13  
*Contents*

第 63 話

0 0 1

第 64 話

0 3 3

第 65 話

0 5 9

第 66 話

0 8 3

第 67 話

1 0 9

第 68 話

1 2 9

彼女として初めは  
すべてを諦めて  
達観していた  
のだから

乱世に荒れ果てた  
国を救うには  
理想の王が必要で

——そして  
王の傍らには  
気高く貞淑な  
后が必要だった

それは  
必要な犠牲  
であったが

それでも  
私は彼女を  
救いたかった

笑顔でいて  
ほしいと

幸福を感じて  
ほしいと——



そんな私の<sup>わたし</sup>おも<sup>おも</sup>い<sup>か</sup>が<sup>の</sup>彼女<sup>じよ</sup>を<sup>くる</sup>苦しめていたと知<sup>し</sup>ったのは  
すべてが<sup>て</sup>手<sup>おく</sup>遅れ<sup>あ</sup>になった後<sup>あと</sup>だった

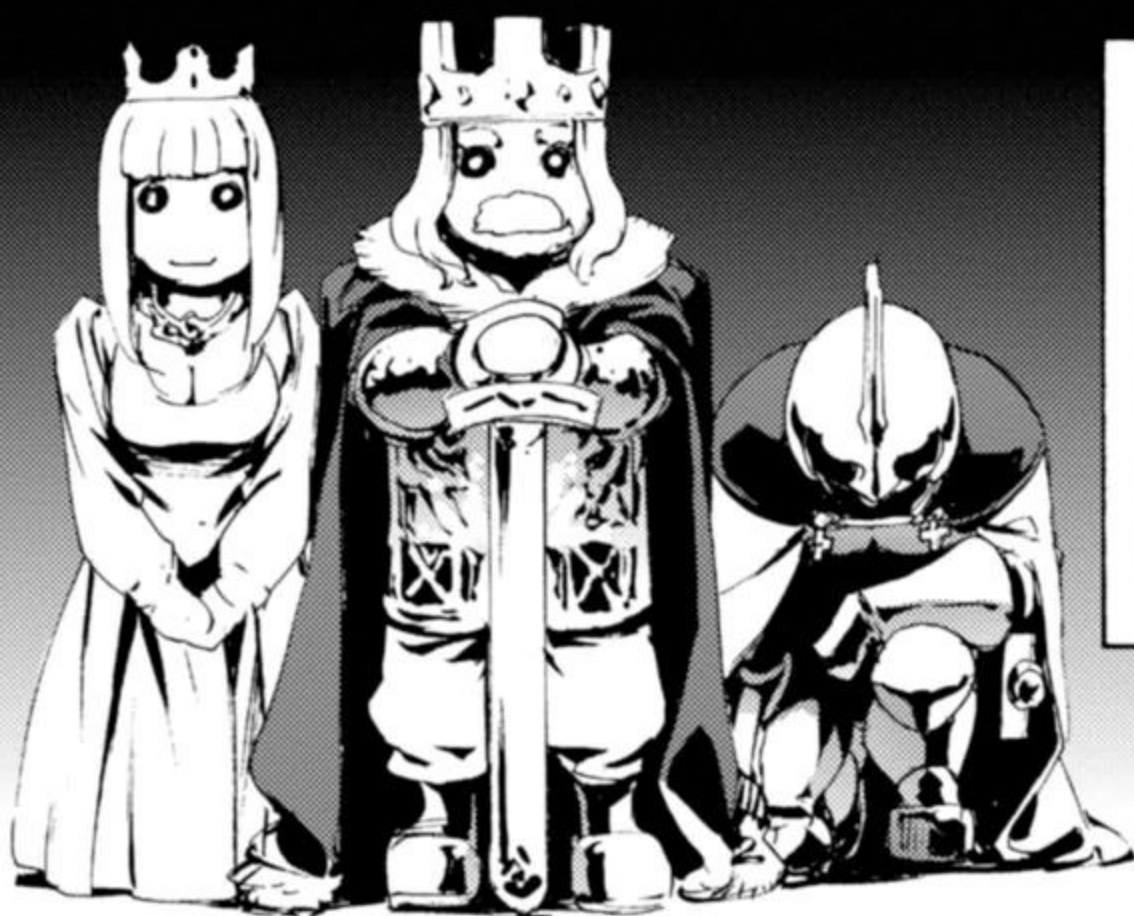
そう——彼女<sup>かのじよ</sup>もまた私<sup>わたし</sup>を<sup>あい</sup>愛<sup>あい</sup>してしまったのだ



……それは  
私<sup>わたし</sup>には  
叶<sup>かな</sup>わなかつた



ならばすべてを  
敵<sup>てき</sup>に廻<sup>まわ</sup>してでも  
想<sup>おも</sup>いを遂<sup>と</sup>げよう——



私<sup>わたし</sup>もまた男<sup>おとこ</sup>でなく  
人間<sup>にんげん</sup>でなく  
「騎士<sup>きし</sup>」という装<sup>そう</sup>置<sup>ち</sup>で  
しかなかったのだから

彼女<sup>かのじよ</sup>が女<sup>おんな</sup>でなく  
人間<sup>にんげん</sup>でなく  
「王妃<sup>おうひ</sup>」という部<sup>ぶ</sup>品<sup>ひん</sup>で  
しかなかったように



諸人のみならず  
精霊にまで  
祝福された  
理想の騎士——

『湖の騎士』  
サー・ランスロット

その称号こそが  
私の誉れであり  
同時に呪い  
でもあった

私の人生は  
私のものではなく  
騎士道を崇め奉る  
全ての人々のもの  
だったのだ

必然——  
私は完璧なる  
主君に忠義した

その陰で 顧みられる  
ことすらなかった  
女の涙を知りながら



どんな在り方が  
正しかったの  
だろうか？

非情に徹して  
理想を貫くべき  
だったのか

没義道を畏れず  
愛を護るべき  
だったのか

葛藤の末に  
もたらされたのは  
最悪の結末だった

王の失墜を目論む  
謀略によって  
王妃の不義は  
暴露され

死罪を宣告された  
后を救出する  
ためには王に仇なす  
しか他になく――

そうして私は全てを失った



だから  
彼女はまた  
泣いている

私に道を  
踏み誤らせた  
己を責めて

結局 私がした  
ことといえは  
愛した女に永遠の  
慟哭を与えただけ

だが私は  
騎士として  
完璧すぎた

元凶であるはずの王が  
完璧であるが故に  
私は唯の一度も  
憎しみを抱くことが  
できなかったのだ

かの王も私を  
責めることなく  
許されざる裏切りを  
犯した私に最後まで  
高潔な友誼で応えた

かくも正しき  
聖君をなぜ  
憎めようか

だが  
私の無念は

ギネヴィアの  
涙は何処に  
向かえば  
いいのか？

いつたい  
何処に？



『来たれ 狂える獣よ』



嗚呼

騎士でさえ  
なかつたならば

普れなき  
理なき  
獣なら

あるいは  
この無念を  
遂げられるのでは  
なからうか

『来たれ 執念の怨霊よ』



そう——  
狂気こそが  
救いの揺籃だ

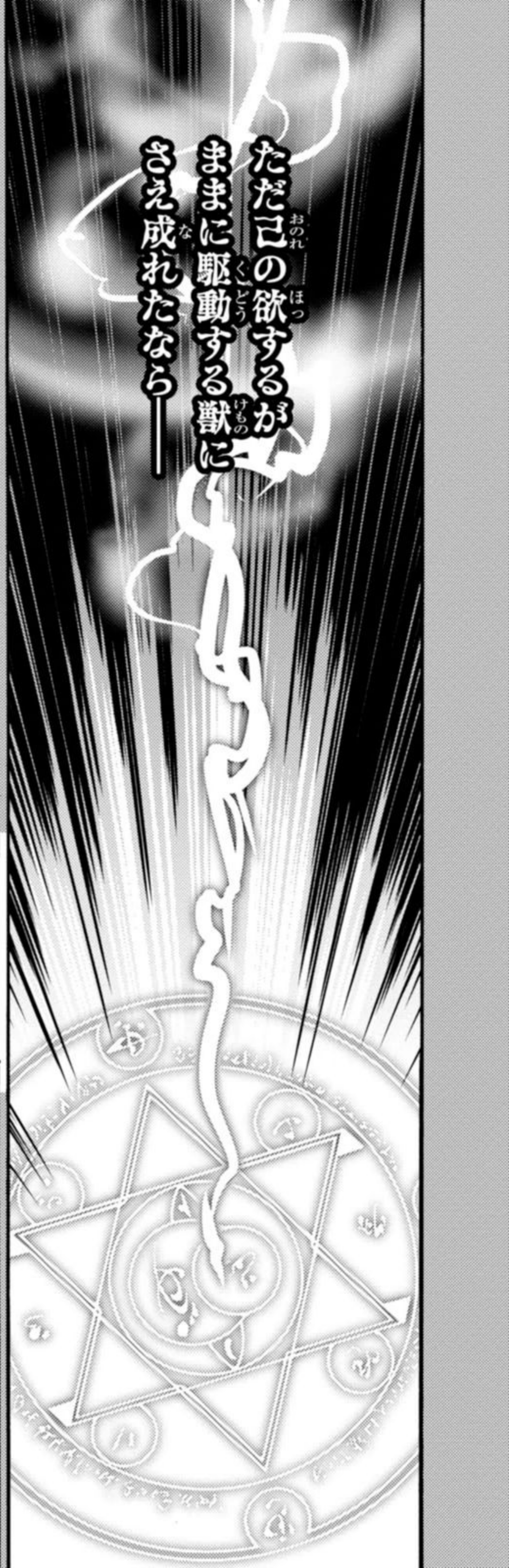
獣であれば  
迷わない

迷わなければ  
苦しまない

何も  
望まれず

何も  
託されず













そんなに……

私が  
憎かった  
のか……

朋友よ……



いざ  
知るがいい

貴様の輝きに  
隠れた涙を

貴様のために  
心を殺し  
摩耗していった  
者たちの嘆きを



そうだ

この姿を  
見たかったのだ



そうまでして  
私を恨むのか

サー・ランスロット  
湖の騎士!

救

そうとも

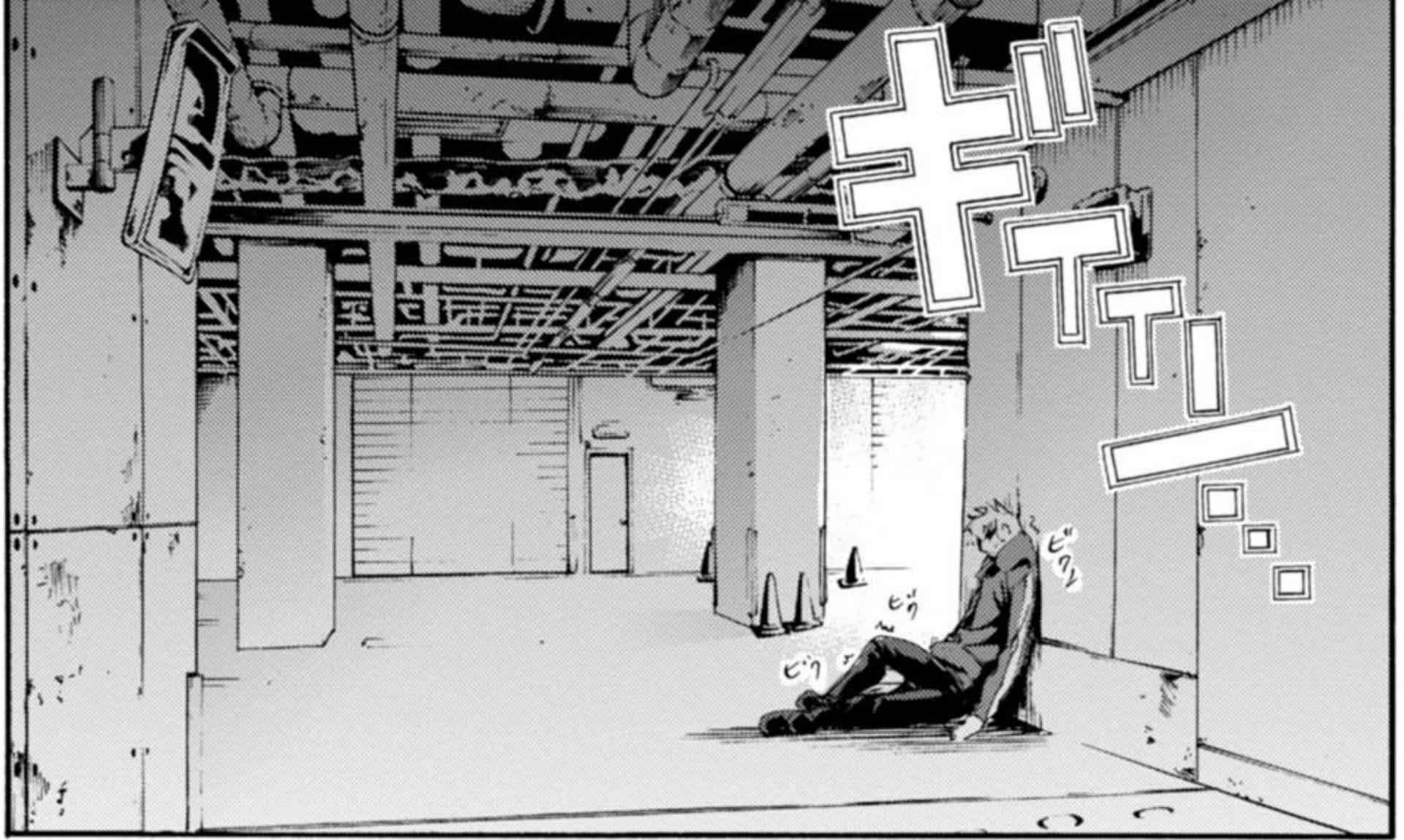
あのとき騎士でなく  
男として貴様を  
憎悪していたならば

私はギネヴィアを  
救えたかも  
しれなかった!

ああ  
そうだとも!

長





からだ  
なか  
身体の中で  
むし  
な  
蟲が哭いている

バ  
ー  
サ  
ー  
カ  
ー  
が  
むし  
で  
さ  
え  
た  
え  
ら  
れ  
な  
い  
り  
や  
う  
の  
魔  
力  
を  
あ  
げ  
て  
い  
る  
吸  
い  
上  
げ  
て  
い  
る



でも  
仕方ないんだ



こ  
き  
ろ  
う  
呼  
吸  
が  
痛  
い

こ  
ど  
う  
鼓  
動  
が  
痛  
い  
ム  
ー  
ン


かん  
が  
考  
え  
る  
の  
が  
痛  
い

な  
に  
か  
を  
お  
も  
い  
だ  
す  
思  
い  
出  
す  
の  
が  
痛  
い






『バ—サ—カ—は  
たたか  
戦わなければならない』




あの神父が  
言っていた

あの神父  
……誰  
だった？

ともかく  
約束して  
くれたんだ



『その暁に聖杯を君に譲る』



そうだ……  
聖杯さえ  
獲れば終わる

聖杯さえあれば  
桜ちゃんが救える

そのために  
今日まで  
耐えてきた

ずっとずっと  
痛みを耐えてきた









勝<sup>か</sup>てない

ランス  
ロットには

あの剣<sup>けん</sup>に  
勝<sup>か</sup>てる  
道理<sup>どうり</sup>がない

「無<sup>ア</sup>毀<sup>ロ</sup>なる湖<sup>ダ</sup>光<sup>イト</sup>」

「約<sup>エ</sup>束<sup>ク</sup>された  
勝<sup>カ</sup>利<sup>リ</sup>の剣<sup>バ</sup>」と  
対<sup>つ</sup>を成<sup>な</sup>す

人<sup>じん</sup>類<sup>るい</sup>が精<sup>せい</sup>霊<sup>れい</sup>より  
委<sup>ゆ</sup>ねら<sup>ら</sup>れた  
至<sup>し</sup>高<sup>こう</sup>の宝<sup>ほう</sup>剣<sup>けん</sup>



それが漆黒の  
怨念に染まっている

完璧なる騎士が  
狂乱に身を  
委ねている

貴様が憎い！

貴様を呪う！

剥き出しの  
感情を込めて  
振り下ろされる  
あの剣をどうして  
躲せる？



ともしん  
朋友と信じていた

たとえ致し方ない  
経緯から矛を  
交えたとしても  
心根だけは通じ  
合っているものと  
思っていた

だがそんな絆は  
私一人の甘えた  
幻想に過ぎ  
なかつたのか




あの結末は  
誰もが正しく  
在ろうとしたが  
故の悲劇だった

だからこそ  
正しい道を貫いて  
正しい結末に  
至らぬ現実が受け  
入れられなかつた

そう思えばこそ  
私は最後まで  
『王』として  
胸を張って戦えた






ならば願望機の  
奇跡さえあれば  
その運命は覆せると

そう  
信じればこそ  
戦えた


そう  
信じればこそ  
誇りを貫けた




だが——








友よ、これが  
貴方の本心  
なのか？



私を呪って  
いたと  
いうのか？



そこまで  
運命に絶望  
していたのか？

「救うばかりで  
導かなかった」



違う

違うと  
言っ  
てほ  
しい

理想の騎士で  
あった貴方に  
だけは解って  
ほしかった

私の在り方を  
正しいと  
是非もないと  
頷いてほしかった



『道を見失った臣下を  
捨て置いて自分だけが  
聖者であろうとした』

やめろおツツ!!







……やめて

くれ……

KUN

頼む……



もう動けない

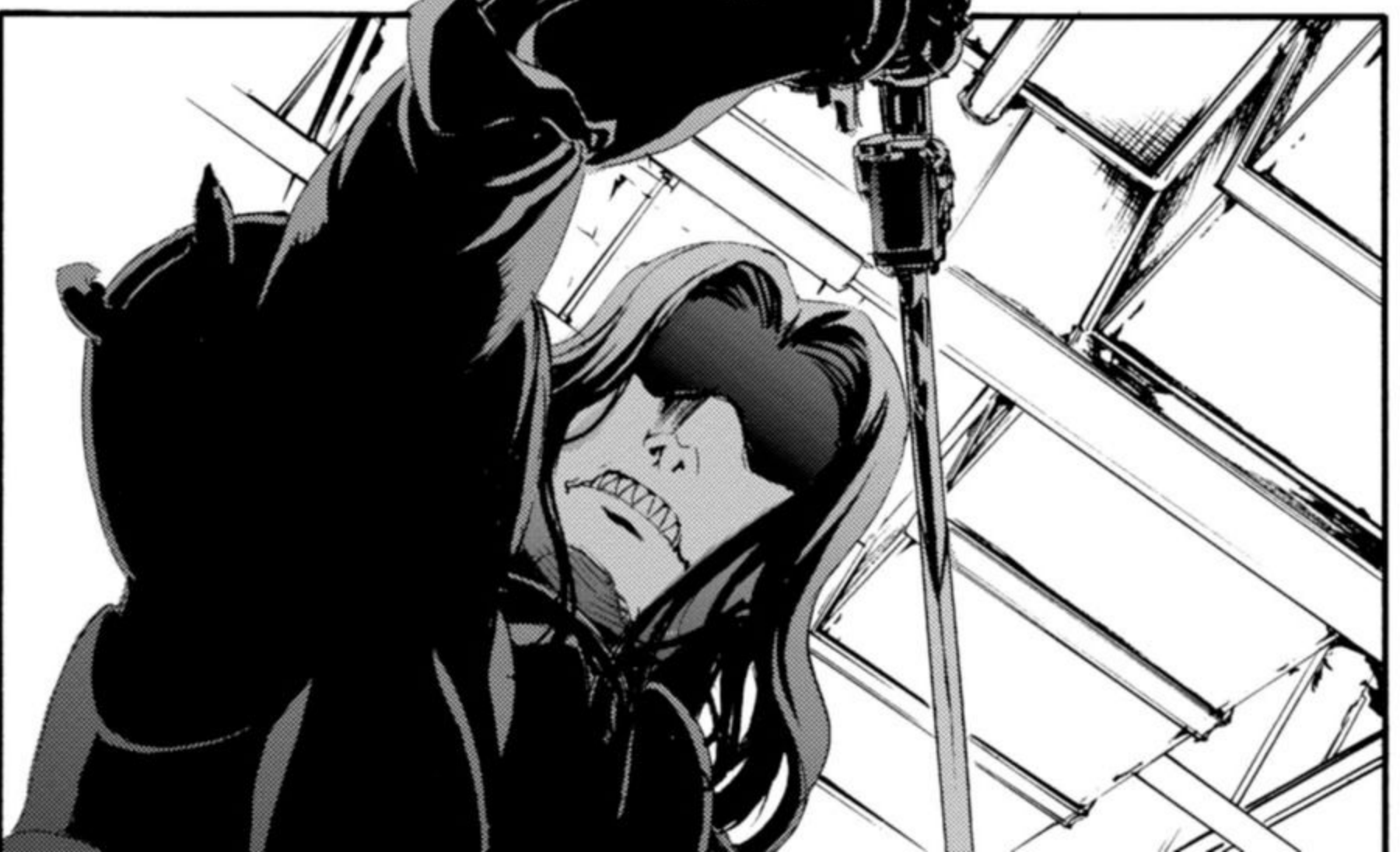
次の二撃は  
防御すらできない

或いは救いは  
償いの術は  
そこにしかないの  
かもしれない……



AFAH













……それでも  
私は……

聖杯を獲る！



そうで  
なければ……  
友よ……

それでも  
しなければ  
私は何ひとつ  
貴方に償えない



……困った  
御方だ

この期に及んでなお  
そのような理由で  
剣を執るのですか





……ええ  
忝い

だが私も  
こういう形でしか  
想いを遂げられ  
なかったの  
でしょう……



ランス  
ロット……



私は……  
貴方の手で……  
裁かれたかった

王よ……

他の誰でもない  
貴方自身の  
怒りによって  
我が身の罪を  
問われたかった



貴方に償いを  
求められて  
いたならば……

きっとこんな  
私でも贖罪を  
信じて……

いつか私自身を  
赦すための道を  
探し求めることが  
できたでしょう

王妃もまた  
そうだった  
はずだ……



こんな歪んだ  
形とはいえ  
最後に貴方の  
胸を借りられた

この私が  
まるで……

忠節の騎士だった  
かのようにでは  
ありませんか……

王の腕に抱かれて  
王に看取られながら  
逝くなど……

はは

何を……  
貴方は——

「まるで」  
ではなく  
まさに……

ランスロット!

だって  
貴方は……ッ!



『——王は 人の気持ちが分からない——』



ランスロット!

——待て……

待ってくれ……!



だが今更  
どんな言い訳で  
慰めろと?



自分が  
許せない

ランスロットの  
最期の瞬間にまで  
満足な言葉を  
与えてやれなかった







人の心を  
汲めずとも  
孤高の王と  
罵られようとも

そんな是非など  
二の次でいい

それでもこの手が  
勝ち取った勝利を  
故郷に 臣民に  
齎し得るならば――

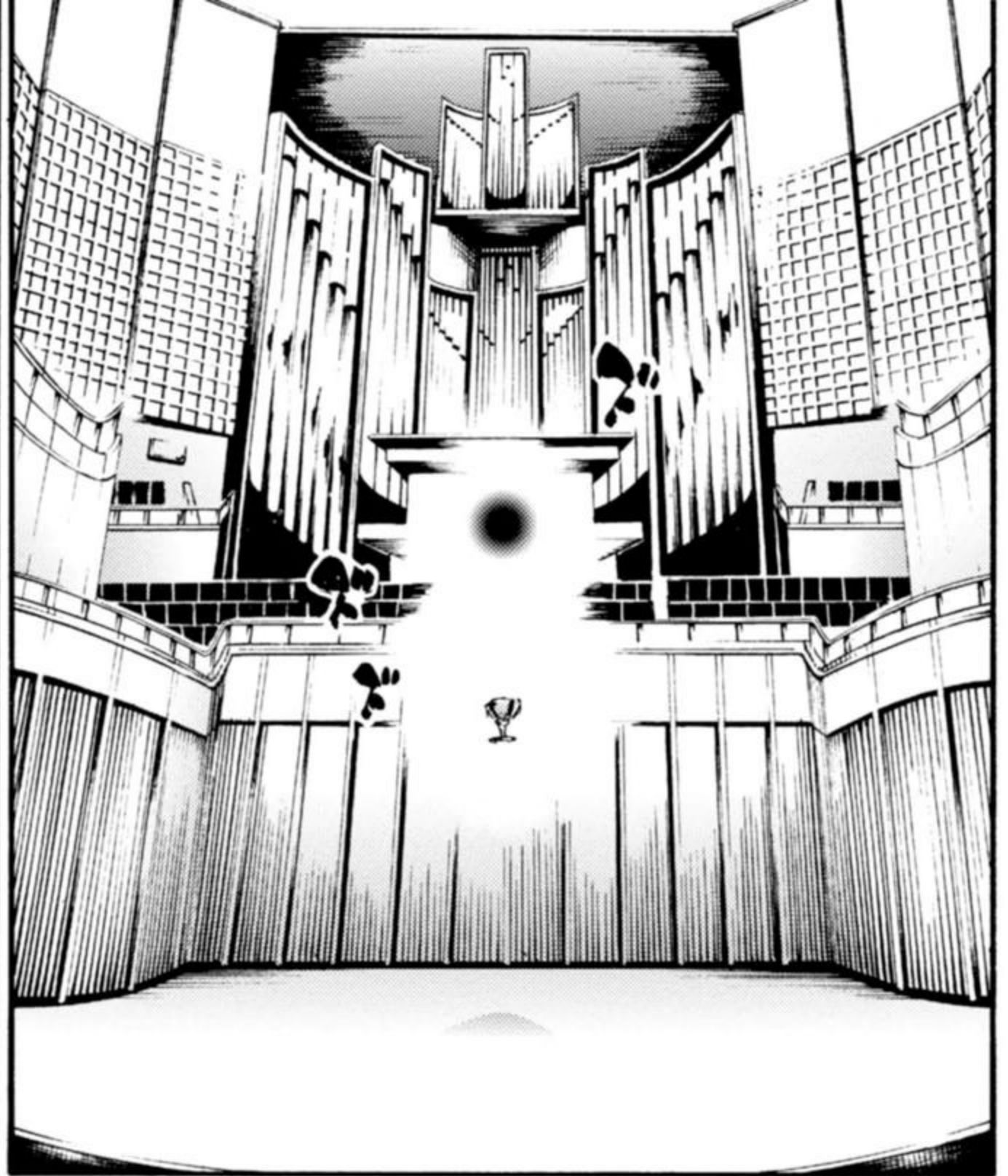
それこそが私が  
王としての  
自身に課した  
機能の全てだ

この手に  
聖杯さえ握めれば  
すべて償える

清算できる

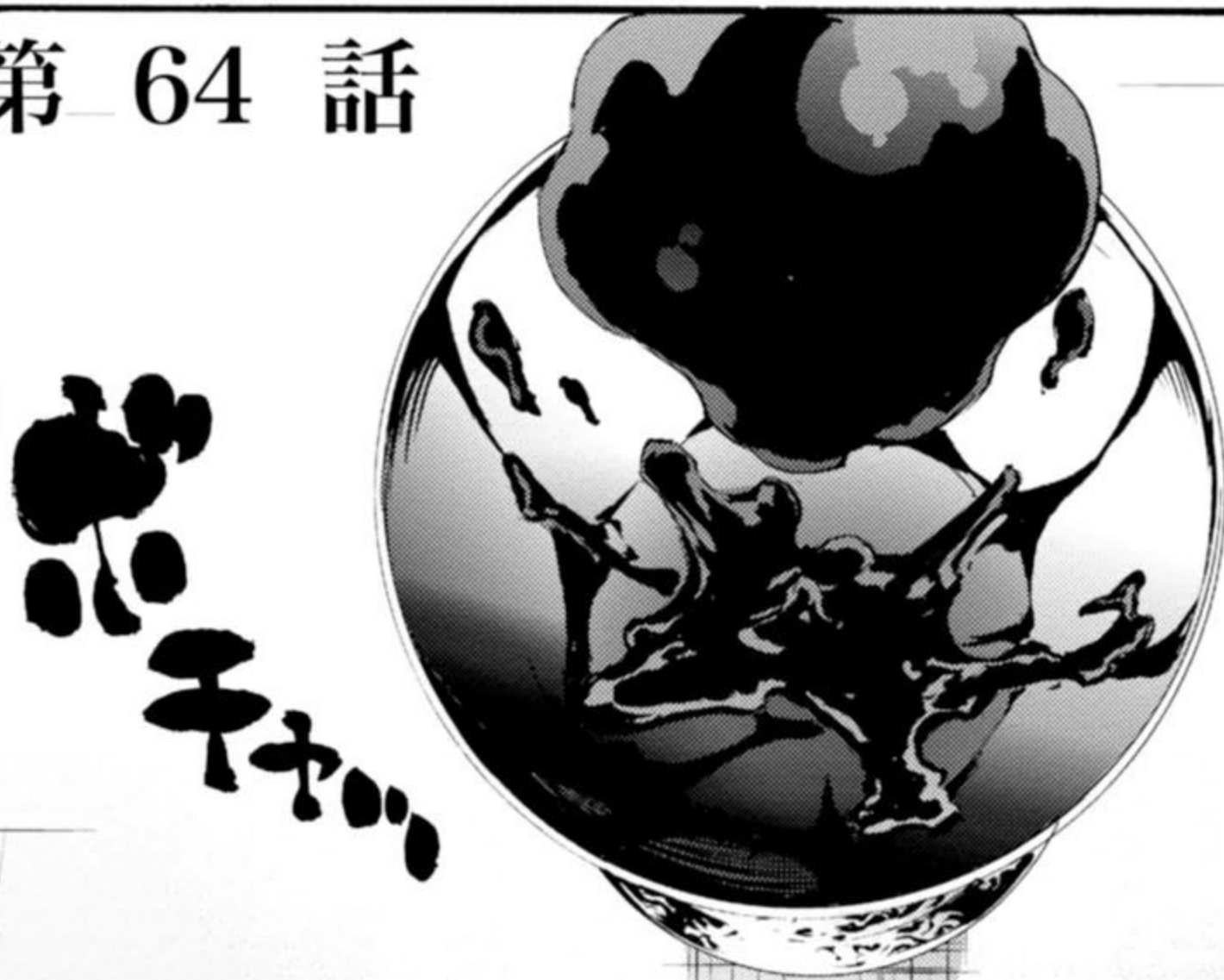
今はもうそれだけが  
王としての道を  
選んだ私のすべて





—03:54:28

# 第 64 話







舞弥が得た情報に基づき、言峰綺礼の戦術分析



寸勁の破壊力は三打で生木を叩き折る

近接戦における八極拳

達人の域にありナイフで武装した舞弥を二撃で重傷に



長距離における黒鍵投擲

一投は予備動作を含めコンマ三秒以下  
連投はコンマ七秒以内に四本を確認

未視認標的に対しても支障なく攻撃

半霊体の刃身は鉄骨を貫き

的中率は非幻術下では100%



僧衣は  
防弾加工と  
呪的防護処理

際立った適性は  
霊体治療のみ

肉體機能増幅  
にのみ注意

魔術習熟度は  
見習い課程の  
終盤程度

9mm軍用弾では  
貫通せず  
制圧効果も無し

こちらが  
圧倒的有利だが  
言峰綺礼がそれを  
覆せるだけの魔術を  
持みとするならば――

初手は  
黒鍵対銃弾

また固有時制御と  
起源弾についての  
予備知識は対策もない  
と判断して間違いない

かかった！



れいじゅかいほう  
令呪開放

こっけんきょうか  
黒鍵強化







起源弾の  
影響を受け  
ないだとい!

あの黒鍵は奴の  
魔力で編まれた  
ものではない  
ということか?

!!



固有時制御  
Time alter——

二 倍 速  
Double accel!







何という……

当たれば一撃で  
行動不能に陥る



黒鍵による  
防御なしならば  
この弾丸は僧衣も  
貫けるはず!



衛宮切嗣の  
魔術は行動の  
加速か!?

# 『活歩』











『こんごうはちしき  
金剛八式』



# 『衝撃』

しょう

すい











終わおった……



この結末けつまつを  
狂くるおしい  
までに求め

あまりにも  
虚むなしい

待ち望まのぞんで  
いたはず  
なのに



ピ  
ン





いま  
今のは完全  
に致命傷だった

「全て遠き理想郷  
にこれほどの  
治癒能力が  
あるとは……！」

固有時制御  
Time alter

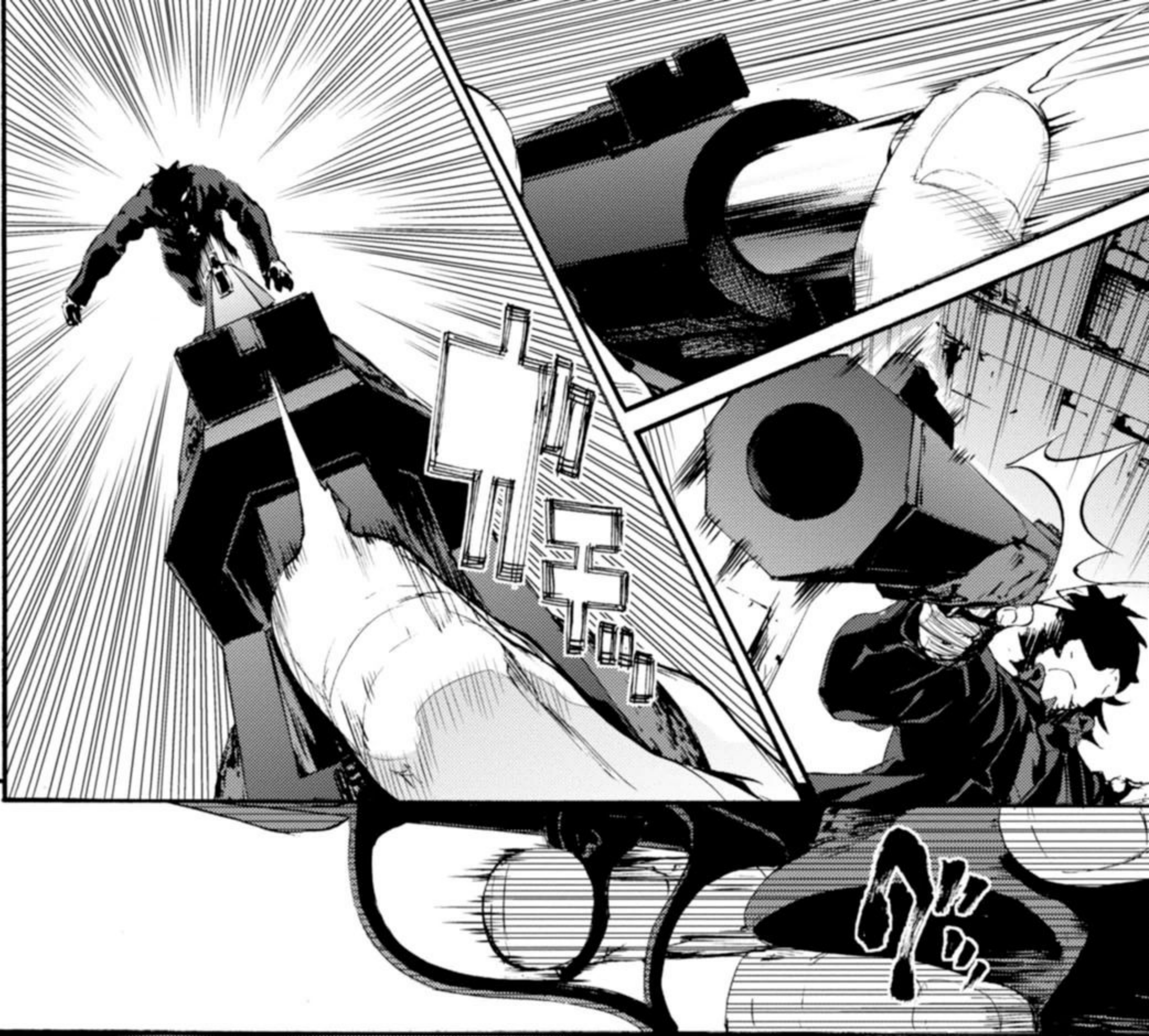
二倍速  
Double accel!











呪  
令呪開放

身体機能強化!

反射加速

右手屈筋

橈骨筋

回内筋の  
瞬発力増幅!

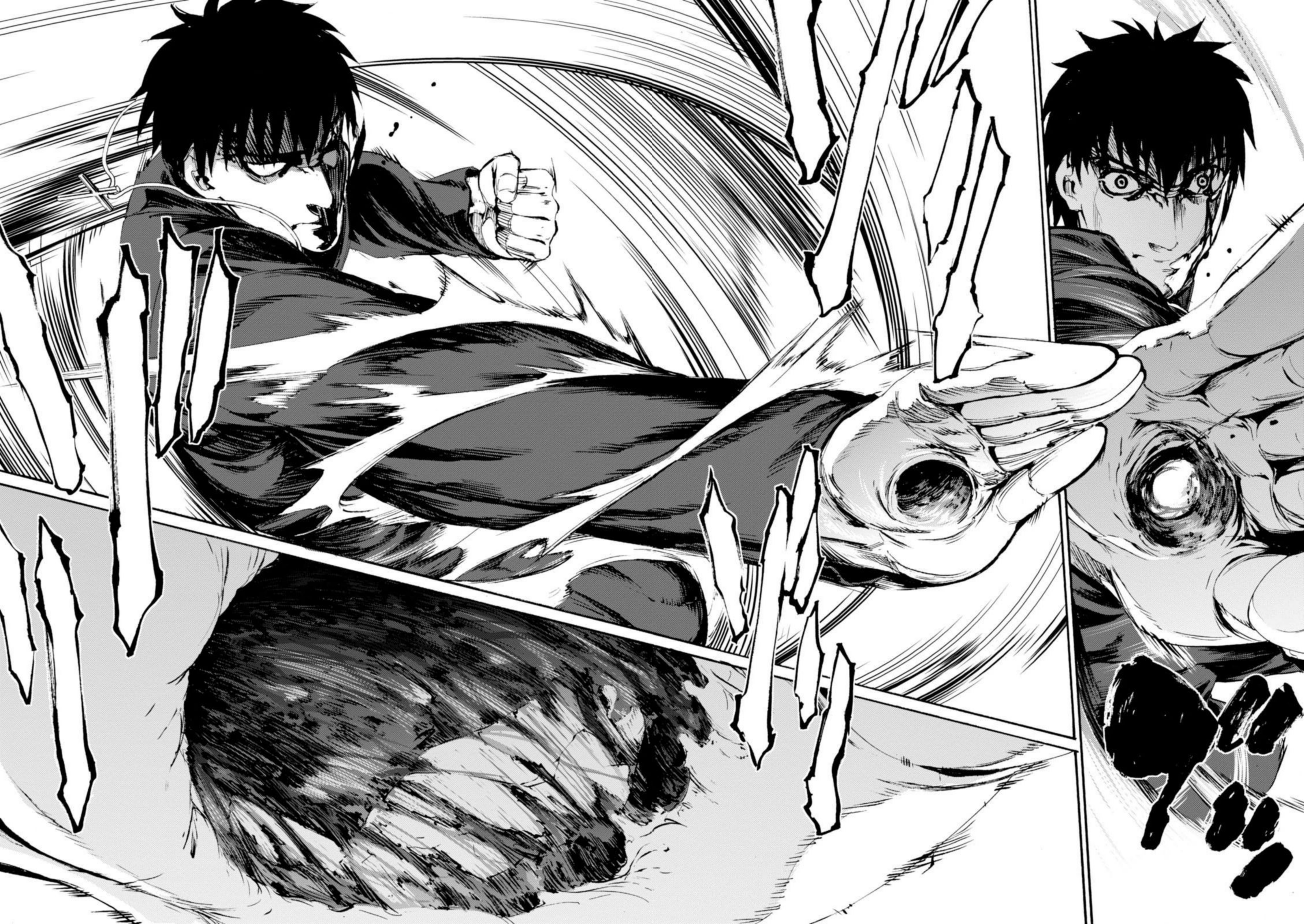


化勁かけい

纏てん







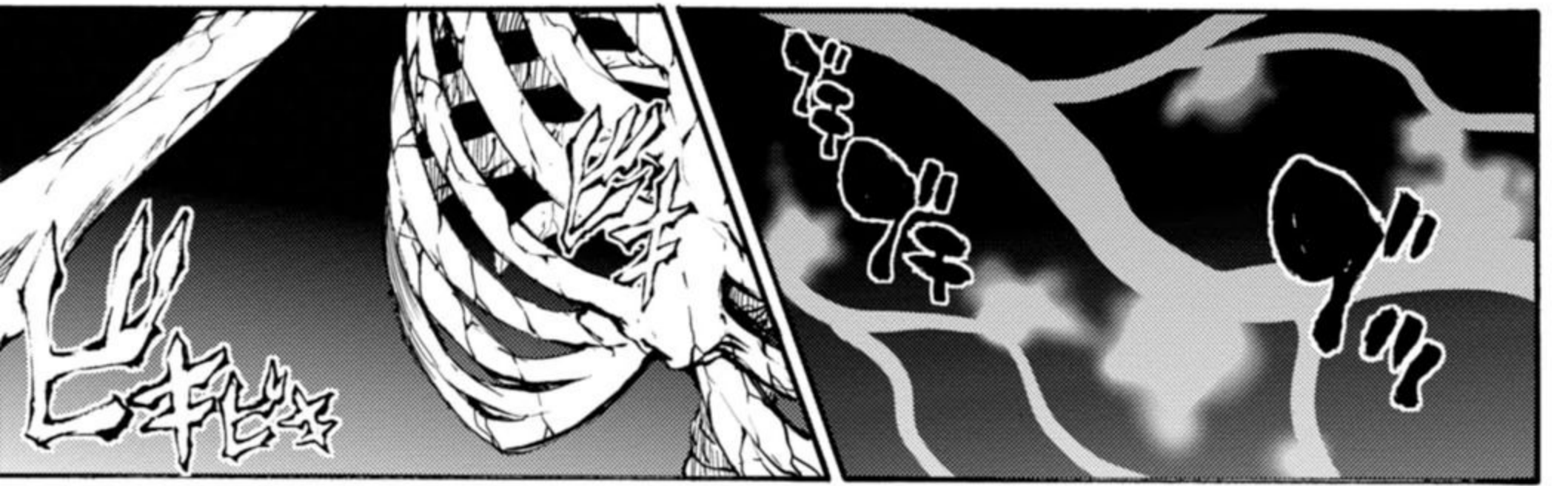




馬鹿な!!

胸を貫くはず  
だった弾道を  
捻じ曲げた  
だと!?







怪物 かいぶつ

もはやその形容 けいよう  
するしかない

一体 いつたい どのような執念 しゅうねん が  
生身 なまみ の人間 にんげん を  
ここまで ここま の凶器 きようき に  
錬磨 れんま しうる しうる というのだ

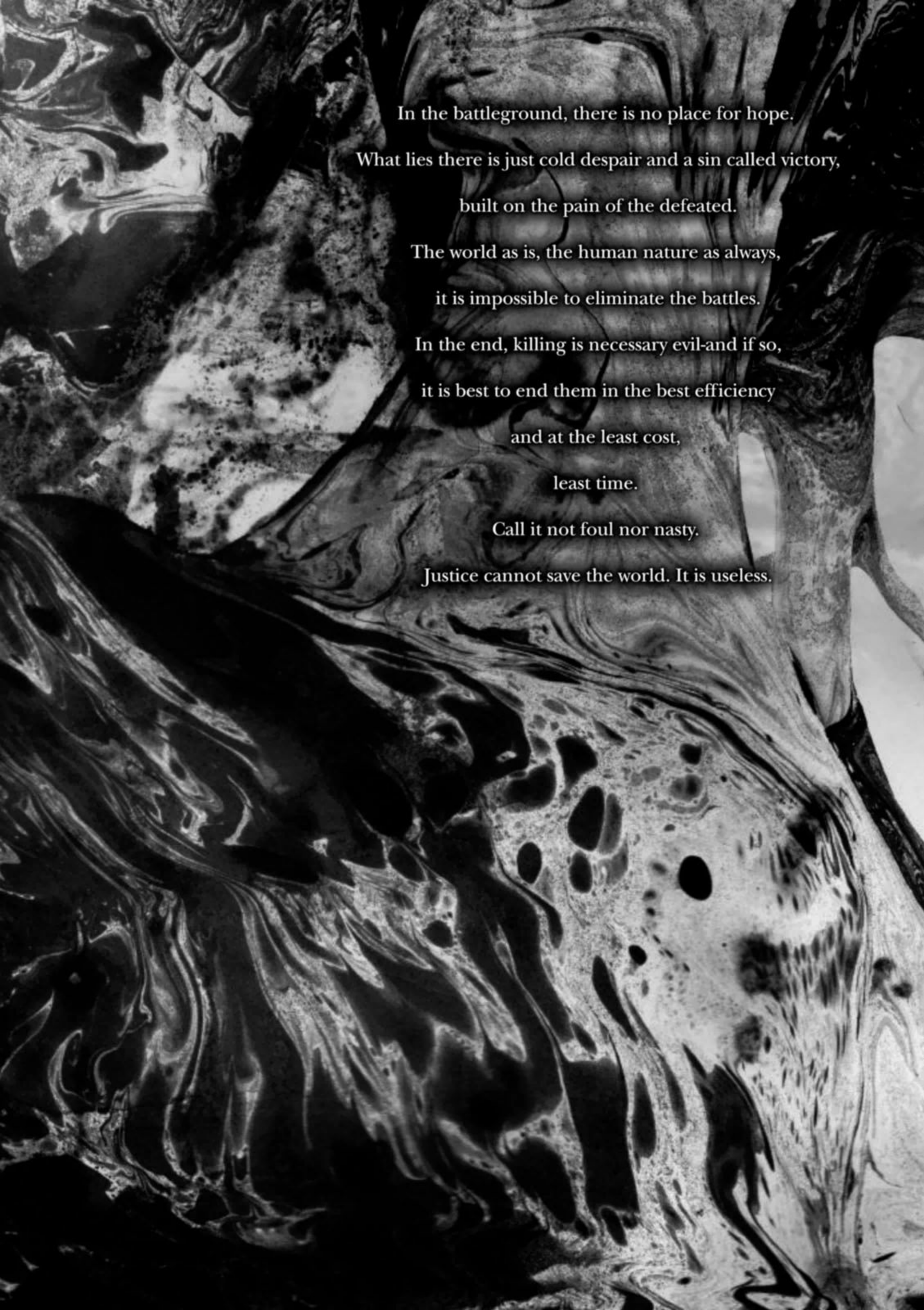


Fate

フェイト/ゼロ

Zero



The background of the image is a complex, marbled paper pattern with swirling, organic shapes in various shades of grey, black, and white. In the foreground, a large, dark, gnarled tree trunk is visible, showing a significant hollowed-out section that reveals a lighter, porous interior. The text is overlaid on this scene, centered horizontally.

In the battleground, there is no place for hope.  
What lies there is just cold despair and a sin called victory,  
built on the pain of the defeated.

The world as is, the human nature as always,  
it is impossible to eliminate the battles.

In the end, killing is necessary evil-and if so,  
it is best to end them in the best efficiency  
and at the least cost,  
least time.

Call it not foul nor nasty.

Justice cannot save the world. It is useless.



第 65 話



ひとすじなわ  
一筋縄では  
いかぬ相手だ……





行動を加速する  
何らかの魔術と  
驚異的な回復力

だが右腕の  
ダメージが激しい

あと三撃が  
限度か

もはや二撃で  
脳を破壊するしか  
決着は見込めまい

額の裂傷は  
軽微だが  
血が邪魔だ

立て続けの銃撃で  
僧衣の防弾性は  
かなり削がれたが  
防護呪符はまだ健在だ



こっけん  
のざんすう  
はにほん  
三本

よびれいじゆ  
のひんじゆ  
は  
のこ  
残り  
八画

.....





起源弾を無力化しつつ  
発揮できる  
不可解な魔力行使

絶招を極めた  
八極拳

近接戦闘では  
こちらが  
圧倒的に不利

弾切れの  
キヤレコを  
拾う余裕はない

コンテンツダリは  
再装填を要する

残る武装は  
ナイフ二本と  
手榴弾三つ

だが  
固有時制御に  
よる肉体の  
ダメージは



痛みも  
違和感も  
無し……!!

ならば——

……成る程  
「全て遠き理想郷」の  
治療能力は自傷に  
対しても有効らしい

固有時制御  
Time alter

三倍速  
Triple accel!!













やつは左目の  
視野を失い  
こちらは死角に  
なっている！





視覚で敵を捉えることなく  
腕と腕とが触れあつた  
刹那に相手の次の動作を  
読み取るという――

馬鹿な！

これは  
まさか……

「聴勁」かつ！！



うおおおあああッ!!





このままでは  
倒れる……

しかし  
踏み止まれば  
カウンターが  
来る！

固有時制御  
Time alter  
四倍速  
Square accel!!







さらに加速かそく  
するだとい!?

!!













あの黒鍵は  
逃げ道を  
塞ぐためか!



だったら  
打たれる前  
撃つのみ!

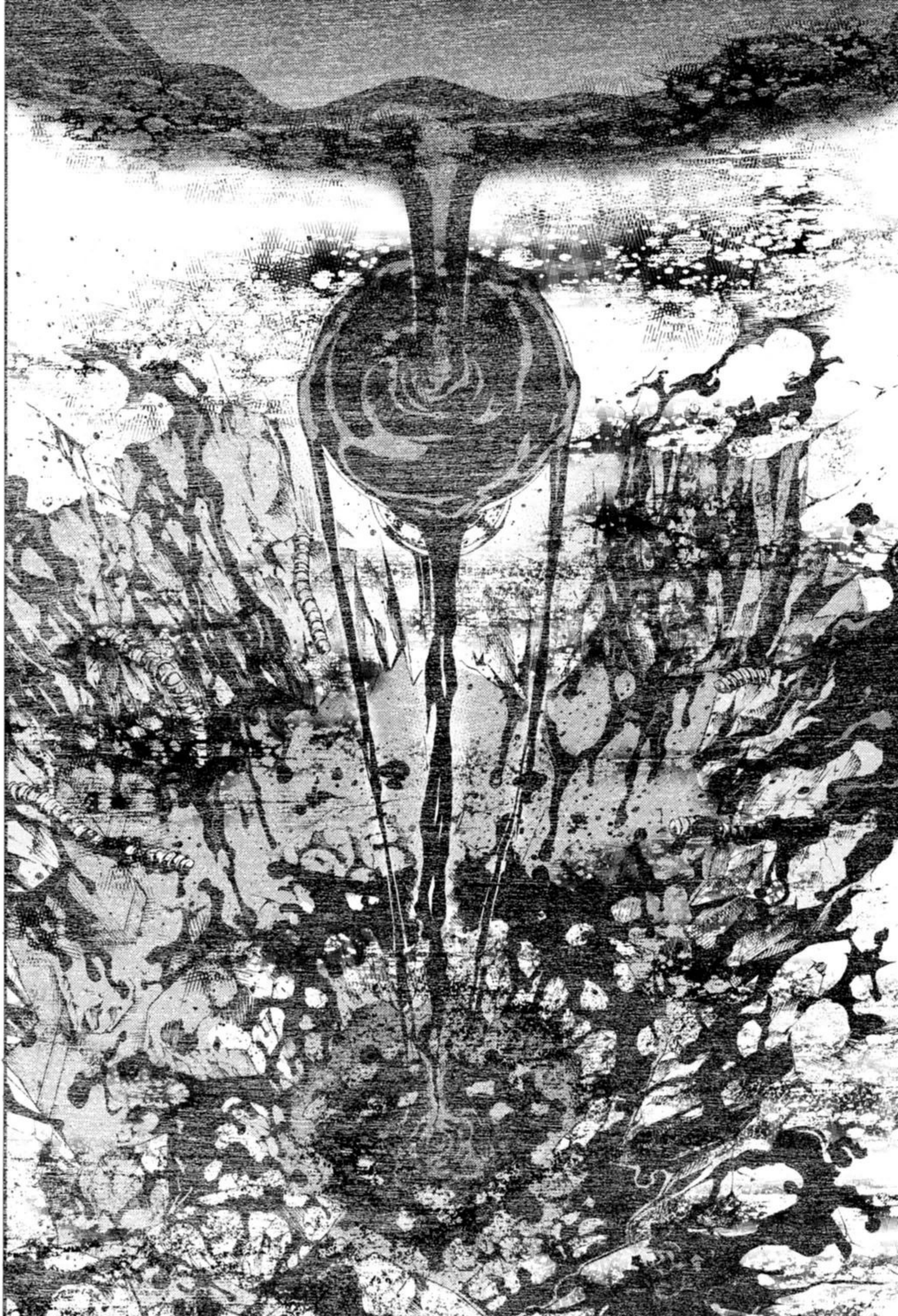














Fate

フェイト/ゼロ

Zero



In the battleground, there is no place for hope.  
What lies there is just cold despair and a sin called victory,  
built on the pain of the defeated.

The world as is, the human nature as always,  
it is impossible to eliminate the battles.

In the end, killing is necessary evil-and if so,  
it is best to end them in the best efficiency  
and at the least cost,

least time.

Call it not foul nor nasty.

Justice cannot save the world. It is useless.



# 第 66 話

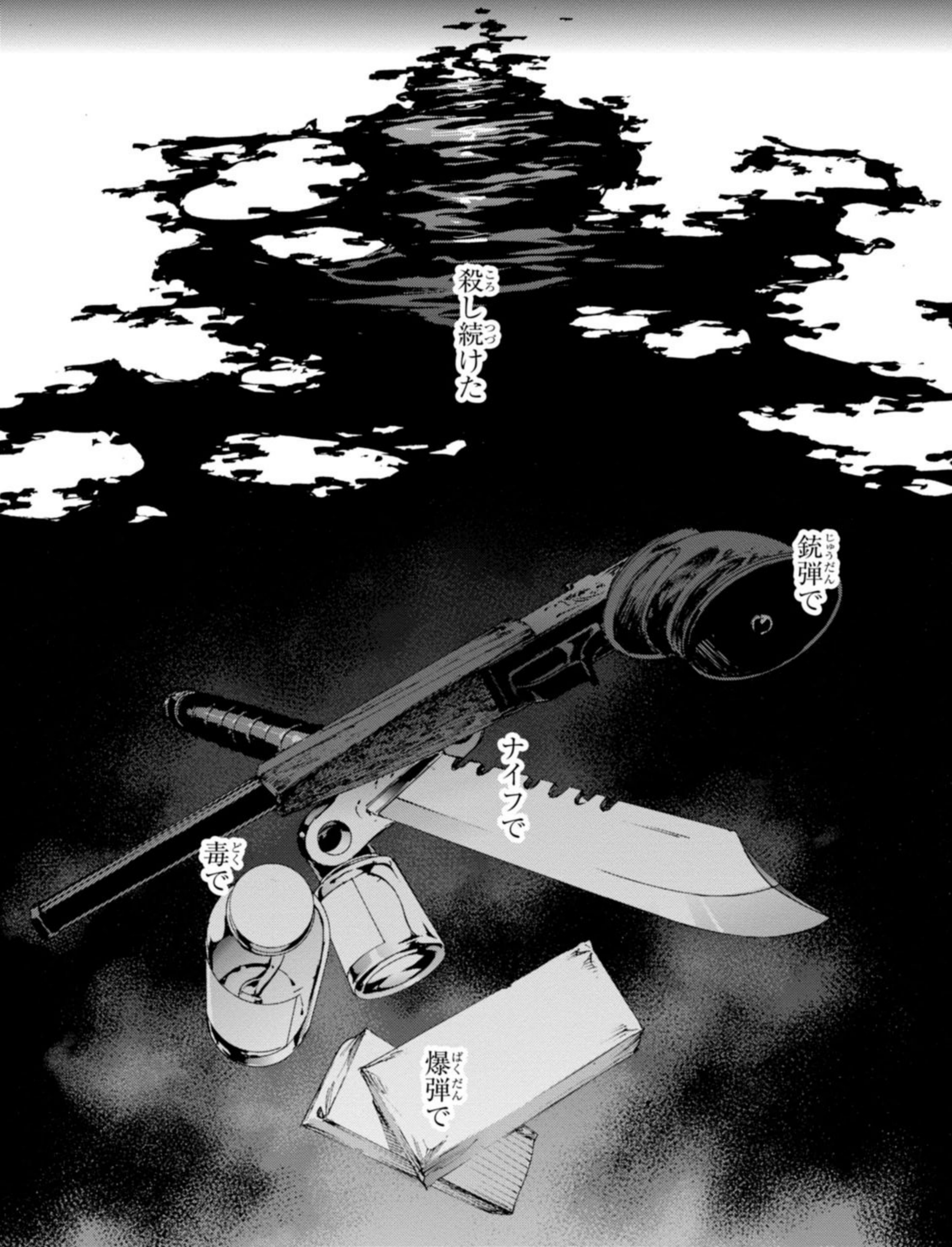
殺し続けた

銃弾で

ナイフで

毒で

爆弾で







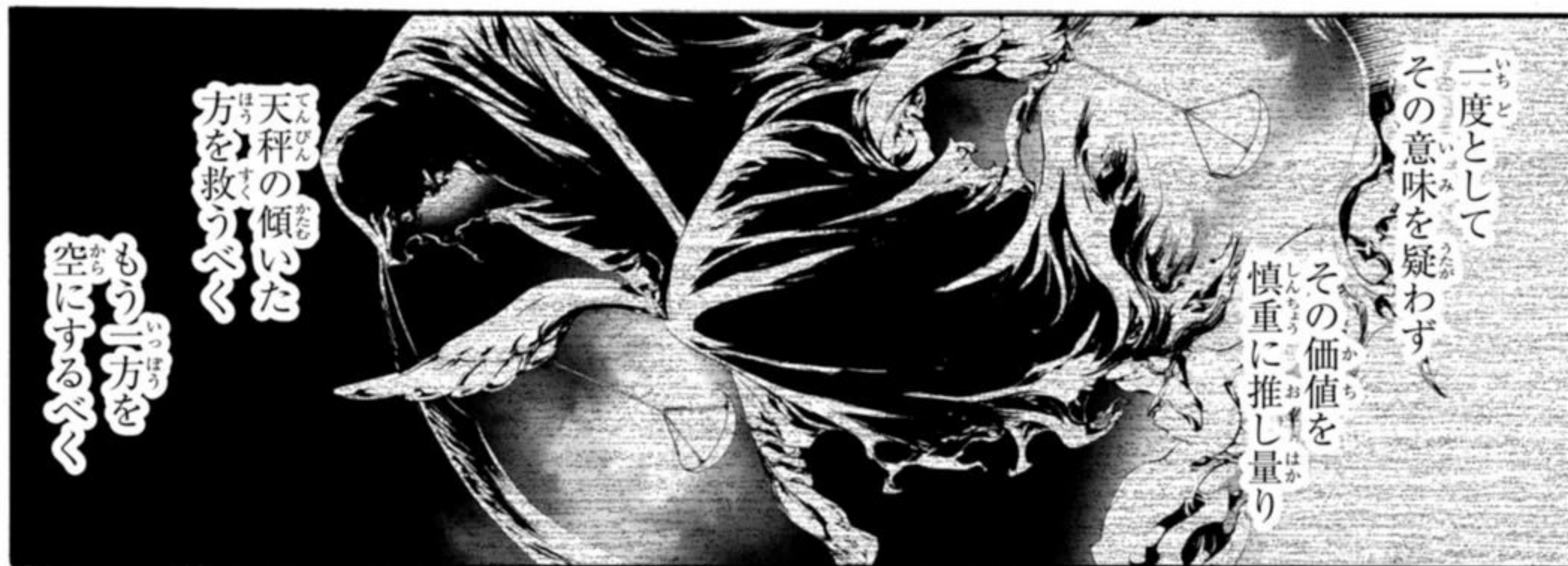
貫いた

燃やした

沈めた

切り裂いた

押し潰した



一度として  
その意味を疑わず

その価値を  
慎重に押し量り

天秤の傾いた  
方を救うべく

もう一方を  
空にするべく



殺した

殺して

殺して

殺し続けた



そう——  
それは正しい

増えた不幸の  
数よりも  
守られた幸福の  
数が勝るなら

多くを救うべく  
犠牲を認める

世界はほんの  
少しだけ救済に  
近づかず  
ではないか

たとえ足下に  
おびただしい数の  
屍が積み重なって  
いたとしても

それで救われた  
命があるなら  
守られた数こそが  
貴いはずだ

そうよ  
切嗣

あなたは  
正しい





アイリ

……ここは  
……どこだ？



ここはあなたの  
願いが叶う場所

あなたが  
求めた聖杯の  
『内側』よ

……ッ！



きつと  
来てくれる  
とおも  
と 思 っ て た

あなたなら  
ここに辿り着ける  
と 信 じ て た







これが……

……  
聖杯<sup>せいはい</sup>  
だって……？









ほら  
あそこ



アレが  
聖杯

まだ形を得て  
いないけれど  
もう器は充分に  
満たされてるわ



そうよ

でも怖がら  
なくていい

これはまだ形の  
ない夢のような  
ものだから

まだ産まれ  
落ちるのを  
待っているだけ



あとは  
祈りを告げる  
だけでいい

どんな願いを  
託されるにせよ  
それを成就  
させるに相応しい  
姿を選び取る

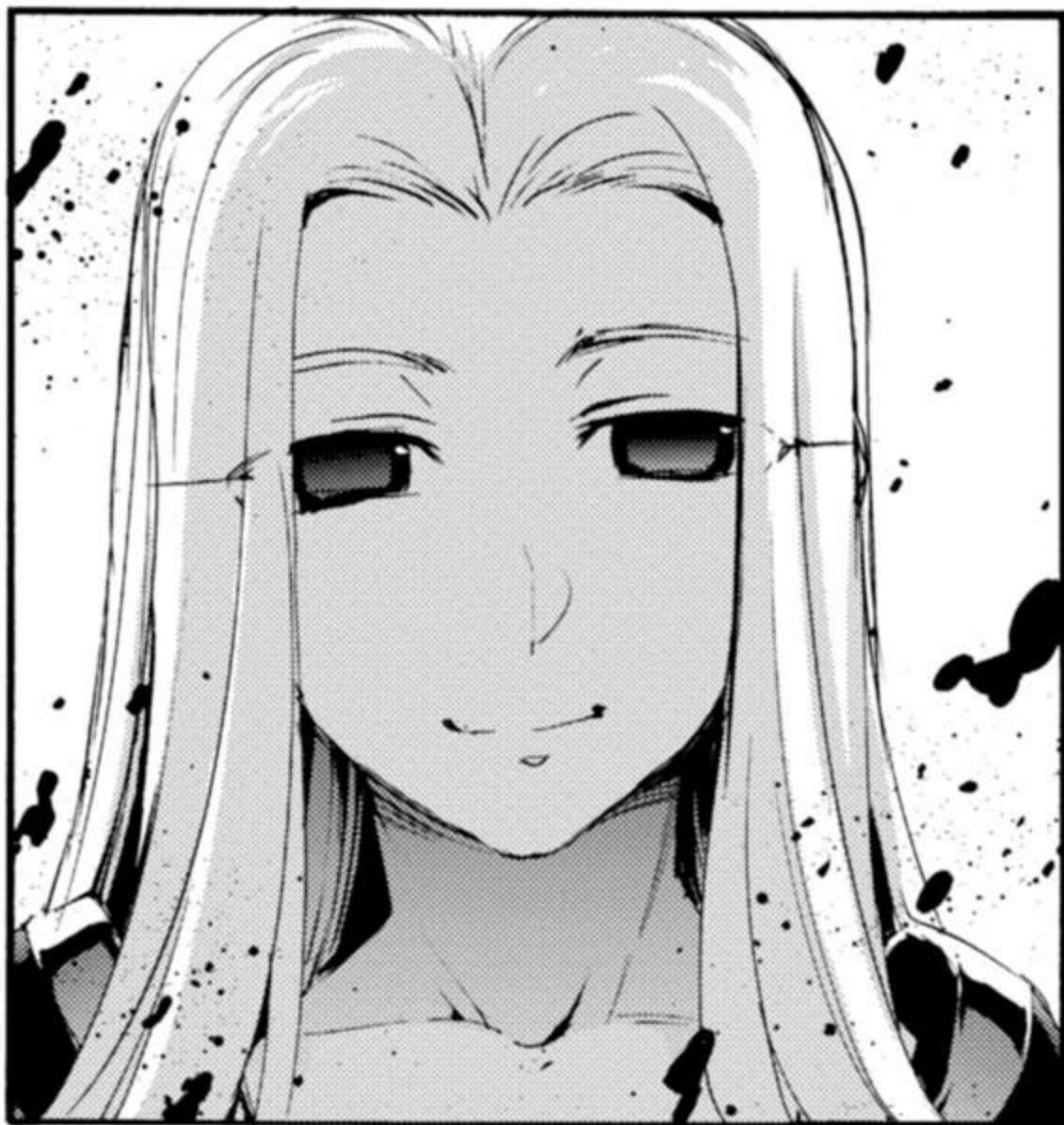
そうやって現世での  
姿と形を得ることで  
アレは初めて  
外に出て行く  
ことができるの

さあ——  
だからお願い

早くアレに  
容を  
与えてあげて

あなたこそ  
アレの在り方を  
定義するに  
相応しい人間よ





きりつぐ せいはい  
切嗣 聖杯に  
ねが お願いを告げて

あんなものが  
せいはい 聖杯だと？



……お前は  
だれ 誰だ？

だとしたら  
きさま 貴様はいったい  
なにもの 何者だ？

せいはい 聖杯の準備が  
じゅんび 整ったなら  
アイリスフィールは  
すで 既にもう亡いはずだ





はぐら  
かすな!

答へろ!



私はアイリス  
ファイル

そう思っ  
てく  
れて何  
の問  
題も  
ない  
のよ



……  
そうね

これが仮  
面で  
あるこ  
とは  
否定し  
ないわ



私は誰か  
既存の  
人格を  
殻とし  
て被  
った上  
でなけ  
れば  
他者と  
意思の  
疎通が  
できない

あなたに  
私の望  
みを  
伝える  
ため  
には  
こう  
いう  
姿を  
取る  
しか  
ないの



でもね

私が記  
録した  
アイ  
リス  
フイ  
ール  
の  
人  
格  
は  
ま  
ぎ  
れ  
も  
な  
い  
本  
物  
よ

彼女が  
消滅  
する  
寸前  
最後  
に接  
触し  
た  
のは  
私  
なの

だから  
私は  
彼女  
の  
最  
期  
の  
願  
望  
を  
受  
け  
継  
い  
で  
い  
る

『斯く  
在っ  
てほ  
しい』  
とい  
う願  
いを  
体  
現  
す  
る  
こ  
と  
こ  
そ  
私  
の  
本  
分  
な  
の  
だ  
か  
ら



—お前は  
聖杯の意志  
なのか？

ええ

その解釈は  
間違つて  
いない

馬鹿な

聖杯はただ  
純粹無色の  
“力”でしか  
ないはずだ

それが意志など  
持ち合わす  
はずがない

以前はそう  
だったの  
かもしれない

でも今は  
違ふの

私には  
意志がある

望みが  
ある

『この世に  
産まれ出たい』  
という意志が

……  
そんな

おかしい

何が  
おかしい





……意志が  
あるという  
ならば問おう

僕の願望を  
聖杯はどうやって  
叶えるつもりだ？



そんなこと  
あなたなら  
誰よりも良く  
理解できてる  
はずじゃない？



何……

……  
だと？



あなたという人間は  
その在り方  
そのものが限りなく  
聖杯に近いのよ

だからこそ  
いま私と繋がって  
いても理性を  
保っていられる

普通の人間なら  
あの泥を浴びた  
時点で精神が  
崩壊しているわ



世界の救い方なんて  
あなたはとつくに  
理解してゐるじゃない

だから私は  
あなたが  
為してきた通り

あなたの在り方を  
受け継いで  
あなたの祈りを  
遂げるのよ

何を……

……  
言ってる？



こた  
答えろ！

せいはい  
聖杯は  
なに  
何を  
する  
つもり  
だ!?

けんせ  
アレが  
現世に  
お  
降り  
立っ  
たら  
なに  
いつ  
たい  
何が  
お  
起  
こ  
る  
ん  
だ  
!?

しかた  
仕  
方  
な  
い  
わ  
ね

さき  
じゃあ  
そこ  
から  
先は  
う  
ち  
が  
わ  
あなた  
自身  
の  
内  
側  
に  
と  
問  
い  
か  
け  
て  
も  
ら  
う  
し  
か  
な  
い  
わ





大洋に二隻の船が浮いている

片方の船に三〇〇人、もう一方の船に二〇〇人

総勢五〇〇人の乗員乗客とあとは衛宮切嗣

仮にこの五〇一名を人類最後の生き残りとして設定しよう

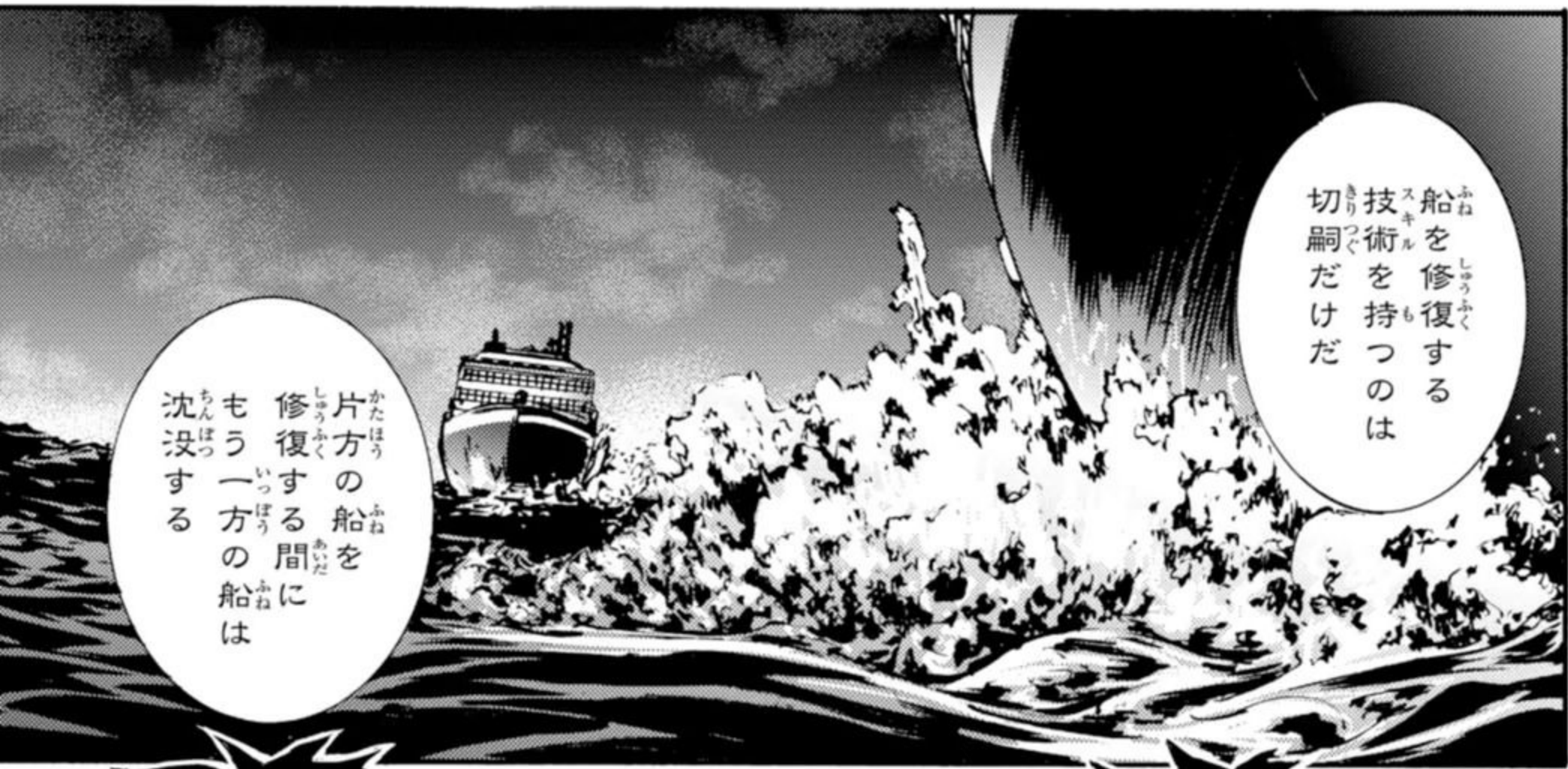
それでは衛宮切嗣の役割演技を受け持つ以下に命題に組み込むがいい

.....!





二隻の船底に  
同時に致命的な  
大穴が開いた



船を修復する  
技術を持つのは  
切嗣だけだ

片方の船を  
修復する間に  
もう一方の船は  
沈没する



……当然  
三〇〇人が  
乗った船だ



さてキミは  
どちらの船を  
直すだろうか？





キミが  
そう決断すると  
もう一方の船に  
乗った二〇〇人が  
キミを捕らえて  
こう要求してきた



『こちらの  
船を先に  
直せ』と

さあ  
どうする？

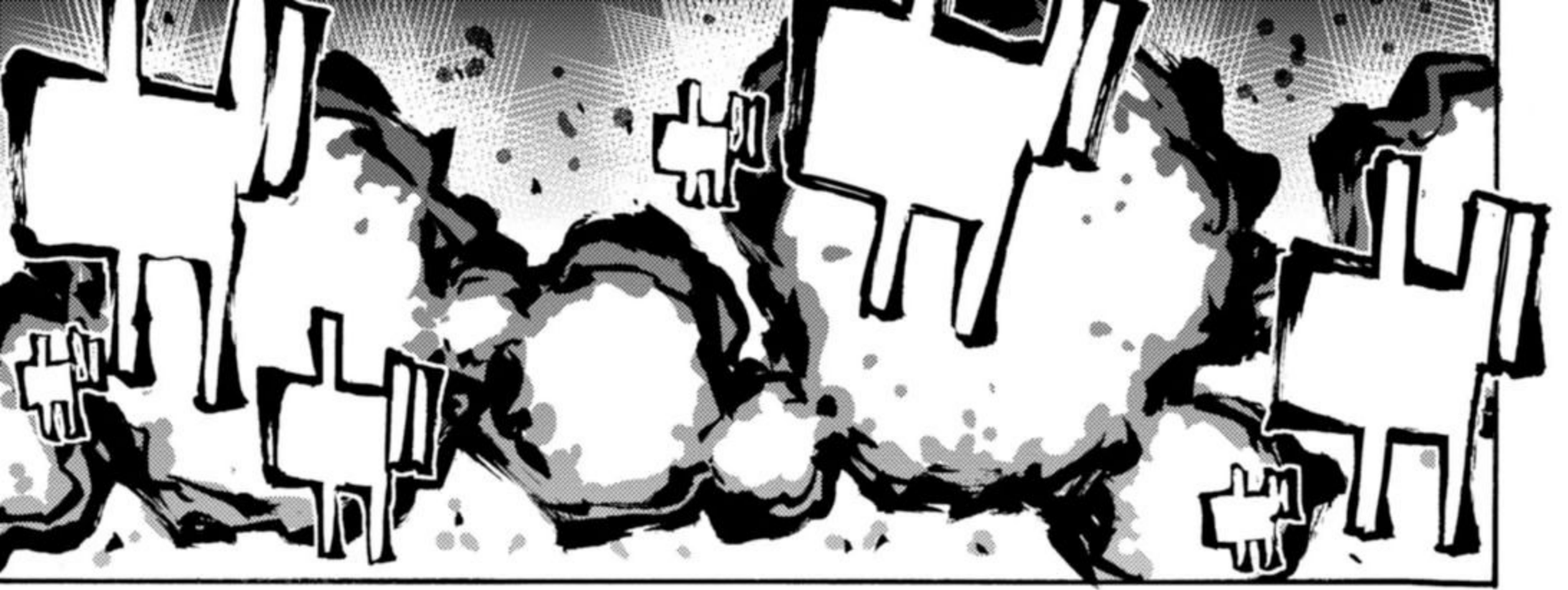


——ッ！



それは……





正解せいがい

それでこそ  
衛宮切嗣だ

さて生き残った  
三〇〇人は  
傷ついた船を棄て  
新たに二隻の  
船に分乗して  
航海を続ける

おい……

今度是一片方の  
船に二〇〇人  
もう一方の  
船に一〇〇人だ

ところが  
この二隻の船底に  
またしても同時に  
穴が開いた









馬鹿な……

何が正しい！

生き残ったのが  
二〇〇人！

そのために  
死んだのが  
三〇〇人！

そんな馬鹿な！

これでは  
天秤の皿が  
真逆だ！

いいや  
計算は間違っ  
ていない

確かにキミは  
多数を救うべく  
少数の犠牲を  
選んでいる

さあ  
それでは  
次の命題だ



これが……  
貴様の見せた  
かったモノか？

そうだ

これが  
キミの真理

衛宮切嗣の  
中の回答だ

即ち  
願望機としての  
聖杯が遂げる  
べき行いだ





ちが  
違うツツ!!

こんなモノ  
望んじや  
いない!

こうする以外の  
方法があつて  
ほしいと……

だから僕は  
「奇跡」に頼る  
しかないと……!

キミが  
知りもしない  
方法をキミの  
願望に含める  
わけにはいかない

キミが世界の  
救済を願うなら  
それはキミが  
識る手段によって  
成就されるしかない

ふざけるな!

そんなもの  
一体どこが  
奇跡だつて  
いうんだ!?



奇跡だとも

かつてキミが志し  
ついに個人では  
成し得なかつた行いを  
決して人の手では  
及ばぬ規模で完遂する

これが奇跡で  
なくして  
何なのか





残の五こ  
つ 人 に  
た が

代か  
船お 代  
に は わ  
の 三 り  
人 人  
の の  
し 三  
か 人  
乗 人  
れ 人  
な 人  
い

さあ  
選<sup>えら</sup>  
べ



第 67 話







コト

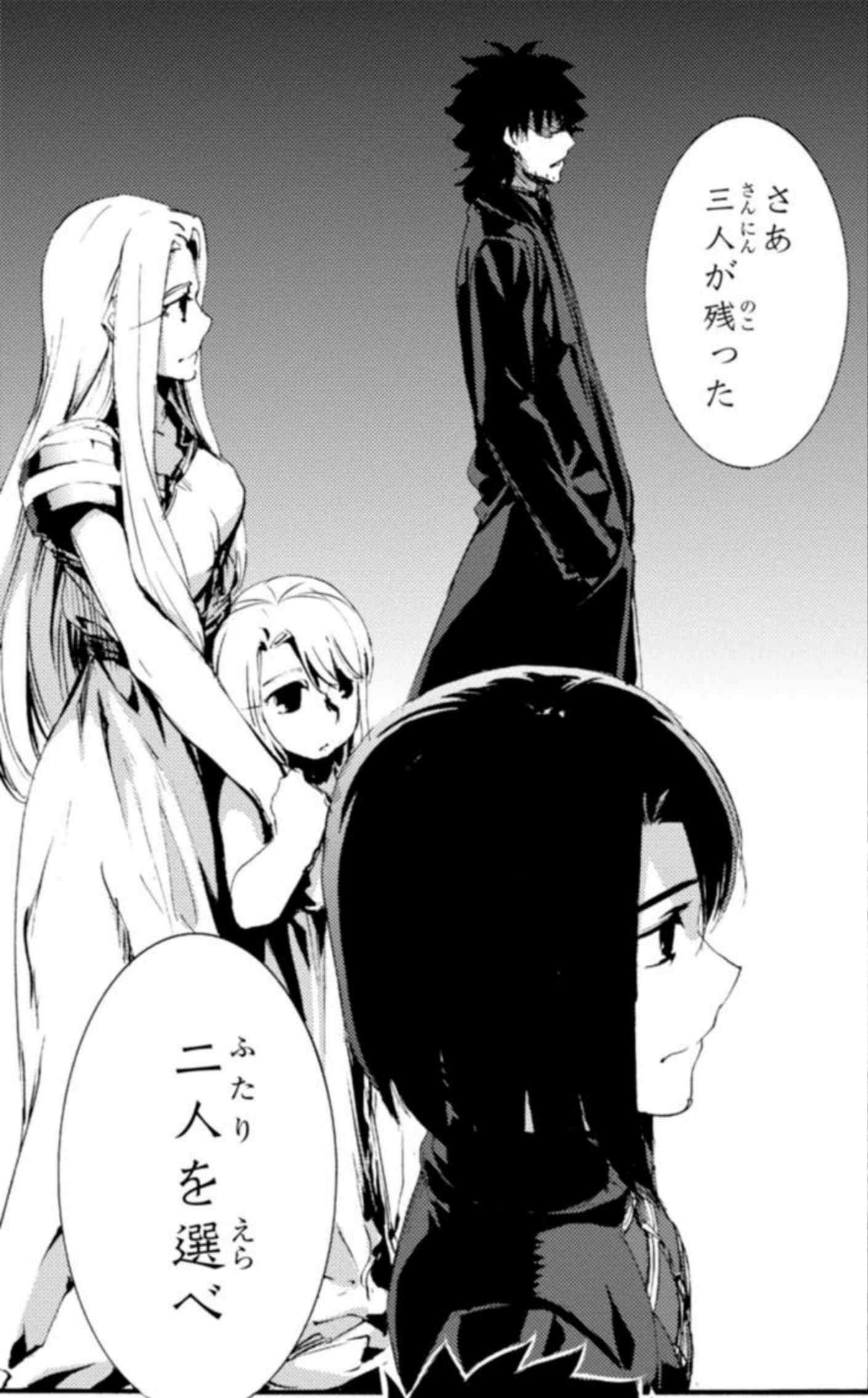
貴様は……

全人類を相手に  
コレをやるのか？

現世に降りて  
コレを……

それが僕の  
理想の成就  
だと!?





さあ  
三人が残った



そうとも

キミの願望は  
聖杯の容として  
最適だ

衛宮切嗣

まさにキミこそが  
『この世全ての悪』  
を担うに相応しい

ふたり  
二人を選べ







これでもう  
てんびん  
の天秤に  
載せようが  
なくなつた



はか  
量りようもない  
とうかの価値

四九八人の命と  
引き換えに  
守り抜かれた  
最後の希望だ

つまりはこれが  
君の求める  
平穏の世界

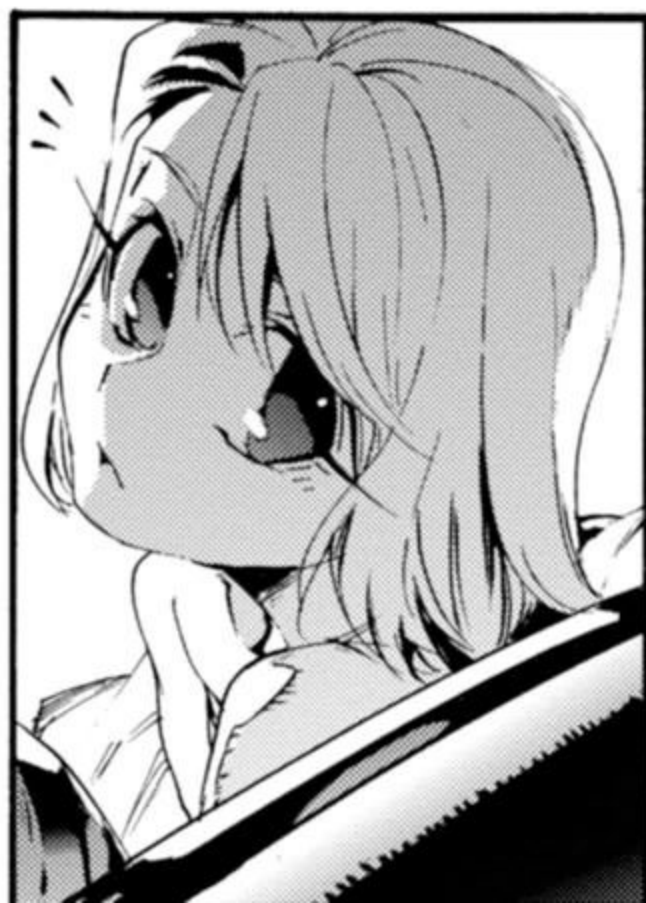
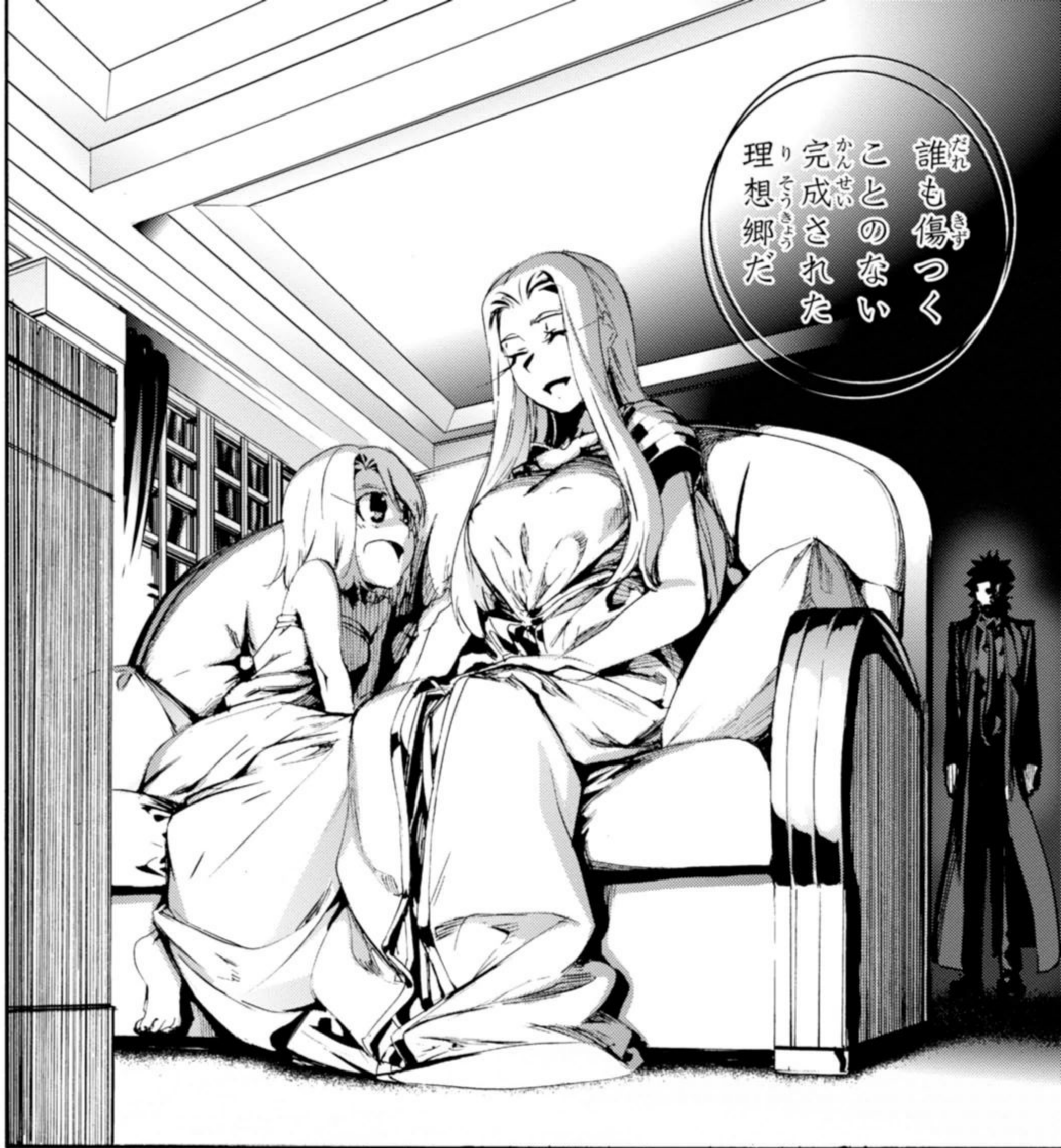
おつ  
おつ

おつ

おつ



誰も傷つく  
ことのない  
完成された  
理想郷だ







ね？  
わかった  
でしょう



おかえり  
なさい  
キリツグ

やっと  
帰ってきて  
くれたのね！

ボク



これが  
聖杯による  
あなたの  
祈りの成就

あとはただ  
それを祈る  
だけでいい

妻を  
蘇らせろと

娘を  
取り戻せと

無限に等しい  
魔力の前には  
雑作もない  
奇跡だわ

後に  
残るのは  
幸福だけ





すべてが滅んだ  
死の星に残された  
最後の人類として

私たちが  
三人の家族は  
末永く幸せに  
暮らし続けるの

……もう

クルミの芽を  
探しに行くことも  
できないね……

ううん  
いいの

イリヤはね

キリツグと  
お母様さえ  
一緒にいて  
くれればいいよ





ありがとう

父<sup>とう</sup>さんも  
イリヤが  
大好きだ

それだけは

誓<sup>ちか</sup>って  
本当<sup>ほんとう</sup>だ……



……



?



ああ……あああ……

……ああああああ



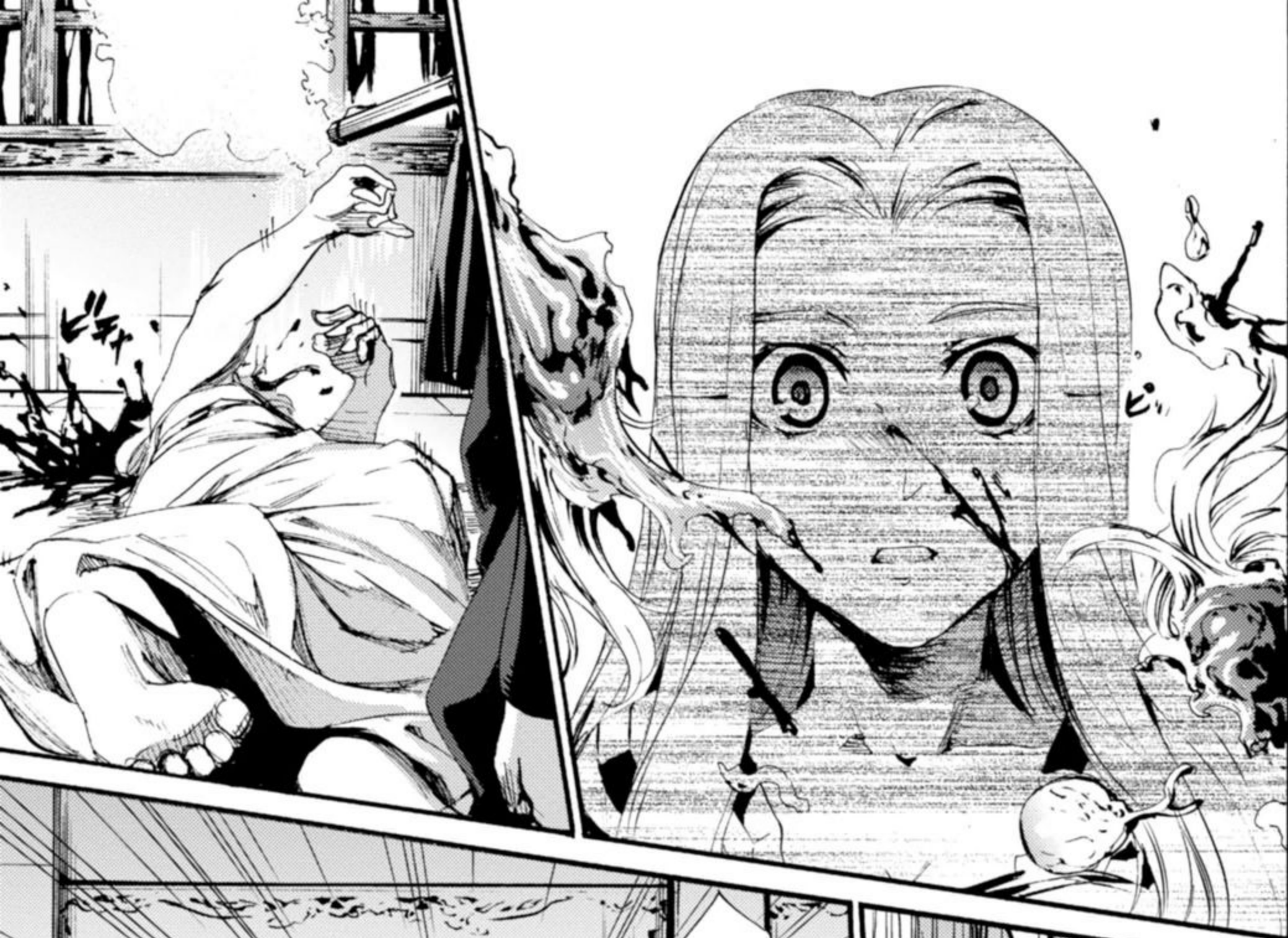


さよなら……

イリヤ……!

イリヤ





何を—!

うああああああああ!!

あなたッ

何をオツ!?





……あなた  
何を……

なぜ  
聖杯を……

私たちが  
拒むの……



聖杯は  
在ってはならない  
モノだった……



私の  
イリヤ……

そんな……  
どうして!?







僕は——  
世界を  
救うからだ

……だって  
僕は……



——呪ってやる——  
のろ



おん

絶対に  
赦さない……  
ゆる



衛宮切嗣……  
えみやきりつぐ

オマエを  
呪う……  
のろ

苦しめ……  
くる

死ぬまで  
悔やめ……  
く



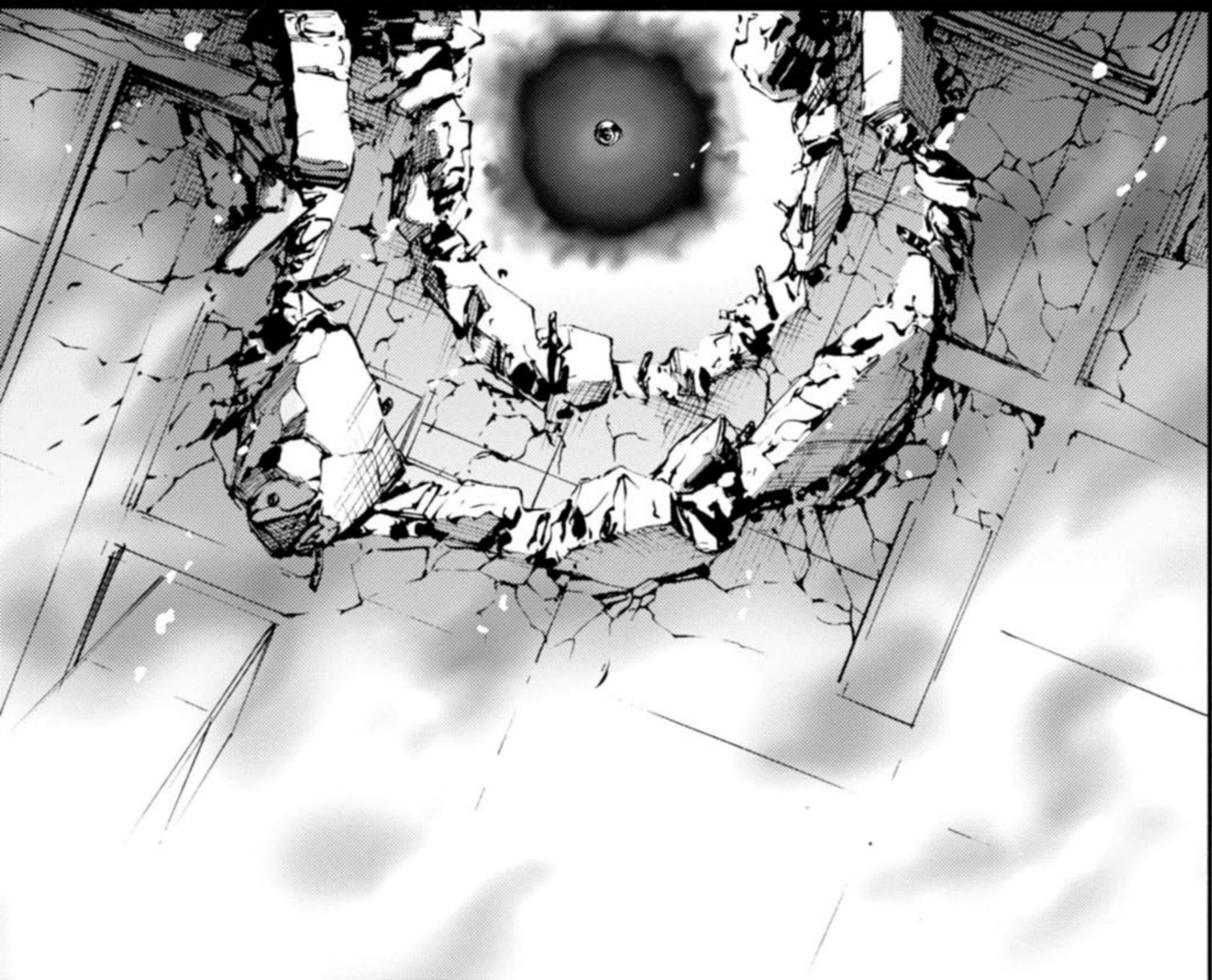
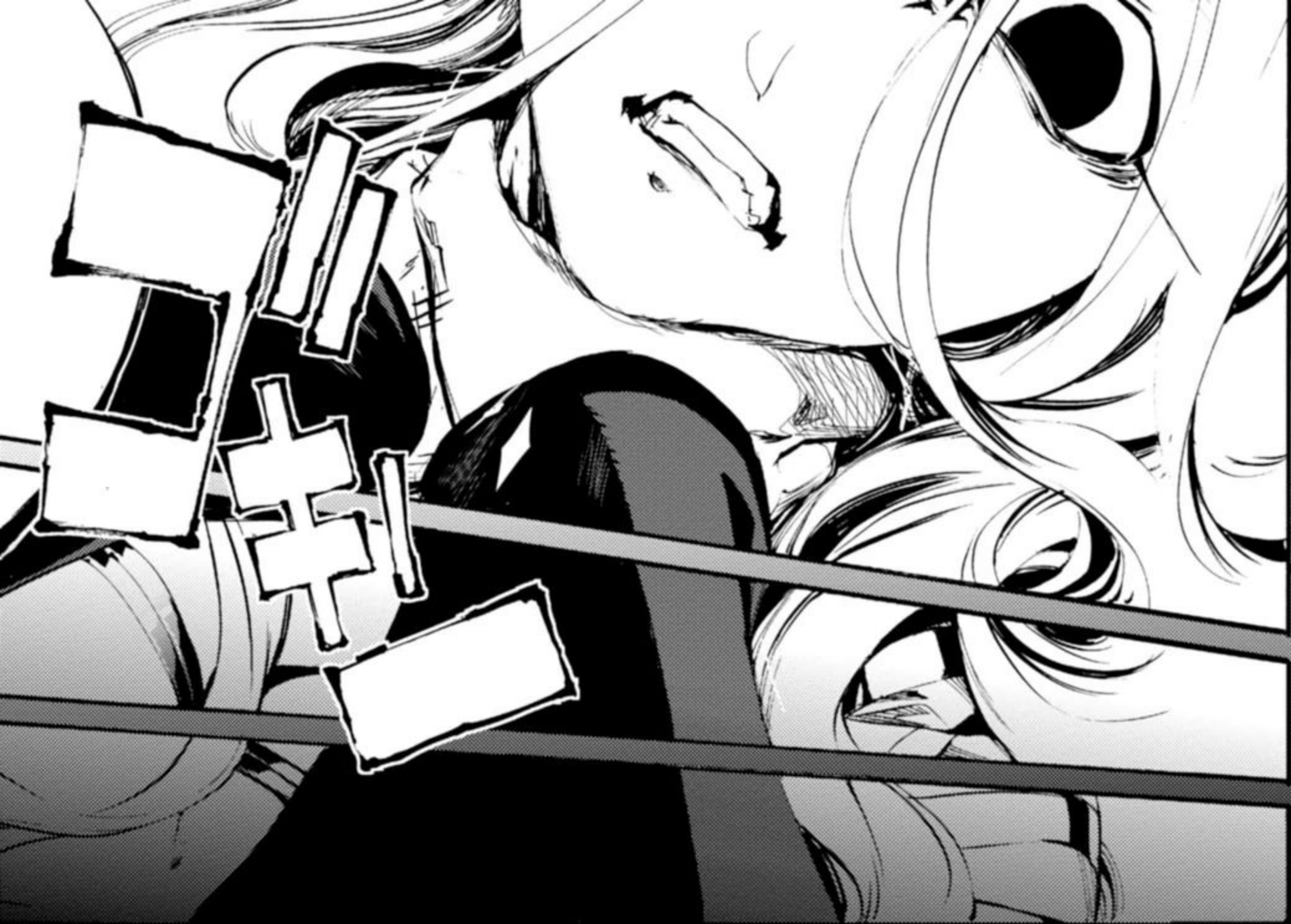


それでいい

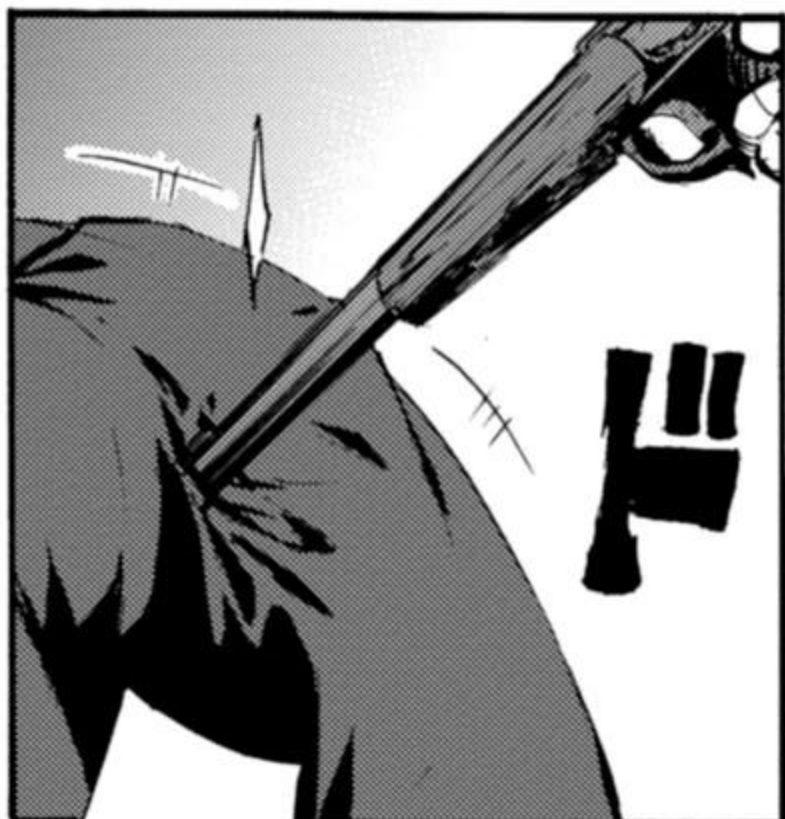
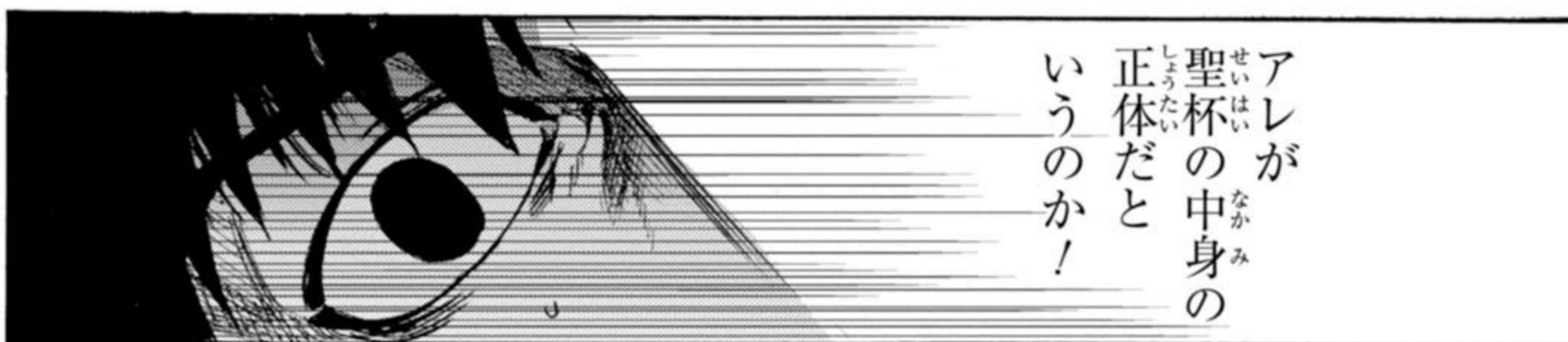
言<sup>い</sup>つたはずだ

僕<sup>ぼく</sup>はオマエを  
担<sup>にな</sup>うと











あれほど  
生死を  
競り合って  
おいて——

……  
愚かすぎて  
理解できん

なぜ  
アレを拒んだ？

……  
勝敗を決したのは  
先に目を覚ました  
というだけの  
偶然とはな

お前は  
……ッ

すべてを擲ち  
犠牲にして  
此処まで辿り  
着いたはずだ！

そうまでして  
手に入れたモノの  
価値をなぜ  
今になって無に  
できる!?

……貴様には  
アレが受け入れて  
良いモノに  
見えたのか？

アレがもたらす  
モノよりも  
アレが犠牲に  
するモノの  
方が重い

——ただ  
それだけの  
話だ



ならば  
わたしに譲れ！

お前にとって  
必要なモノでも  
私には有用だ！

アレは……  
あんなモノが  
産まれ出ると  
いうのならッ！

私の迷いの  
全てに答えが  
もたらされるに  
違いない！


頼む！

殺すな！


アレは  
自らの命を！

……  
誕生を  
望んでいる！






ああ  
貴様こそ——



おろ  
愚かすぎて  
理解  
できないよ







In the battleground, there is no place for hope.  
What lies there is just cold despair and a sin called victory,  
built on the pain of the defeated.

The world as is, the human nature as always,  
it is impossible to eliminate the battles.

In the end, killing is necessary evil-and if so,  
it is best to end them in the best efficiency  
and at the least cost,  
least time.

Call it not foul nor nasty.

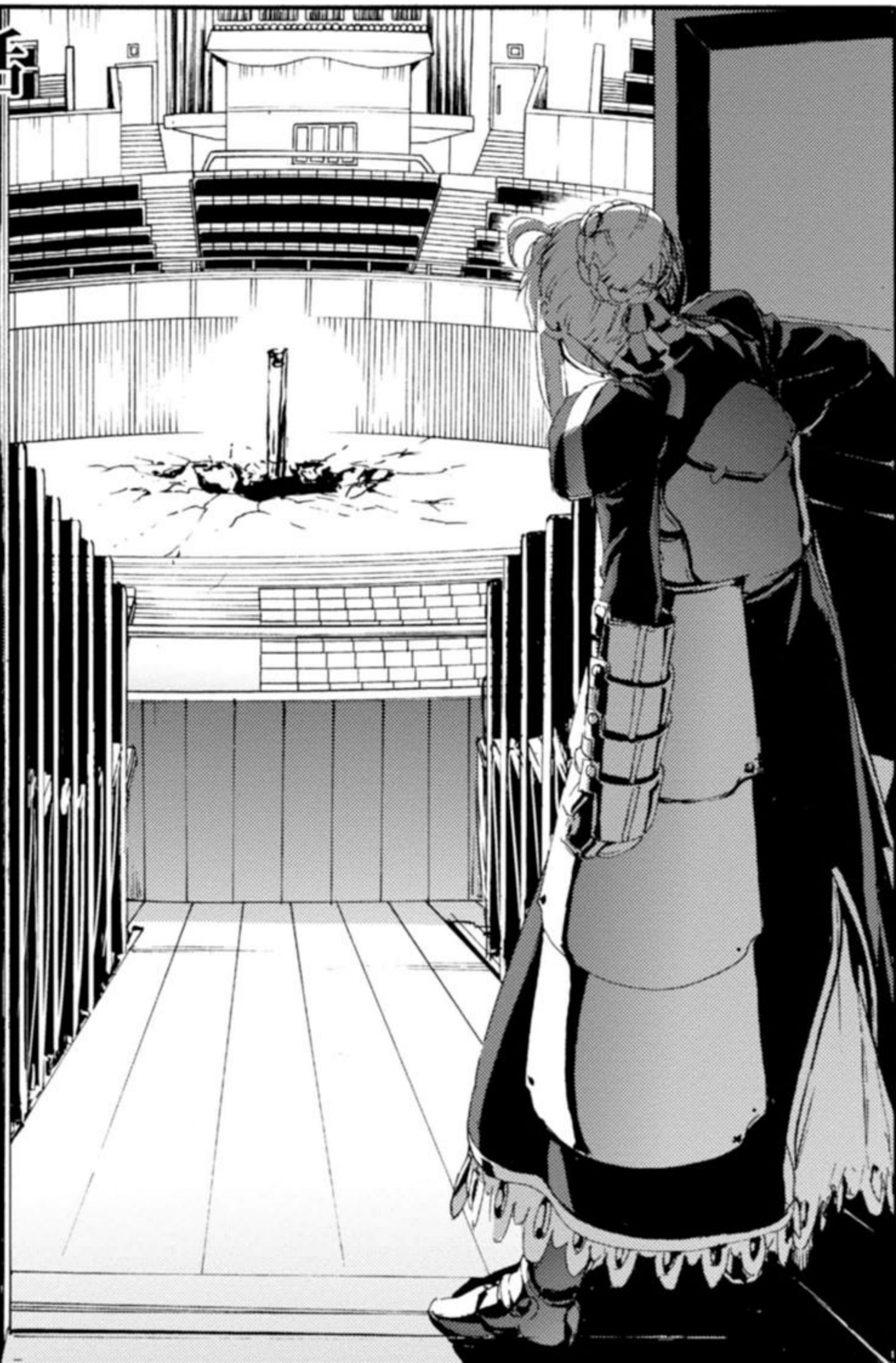
Justice cannot save the world. It is useless.





おい...

# 第 68 話







アイリス  
フィール……



またしても  
私は誓約を破った

かつて愛する  
故国を救え  
なかつたように

友を苦悩から  
救えなかつたように



剣に懸けて  
守ると誓ったのに

果たせなかつた





……はい  
ザッ

せめて  
それだけは  
貫く



それだけが  
私に残された  
全て……



セイバー  
聖杯を手に入れて

あなたと  
あなたの  
マスターのために



遅いぞ  
セイバー

昔馴染みの狂犬と  
戯れるにしても  
この我を待たせるとは  
不心得も甚だしい

アーチャー……ッ





そう露骨に欲を  
表に出しては  
品位に欠けるぞ

何という顔を  
している？

我が財宝に  
見惚れるにしても  
少しは慎め

まるで飢えた  
痩せ狗のよう  
ではないか



私のモノ  
だ……ッ！



……そこを  
退け……

聖杯は……





ぐめじ……



妄執まうしやくに墮おち  
地ちに這はってな  
お前まえという  
女おんなは美うつくしい





貴様は…  
…何を…

セイバー  
お前という女の  
在り方そのものが  
既に希なる「奇跡」  
ではないか

セイバー

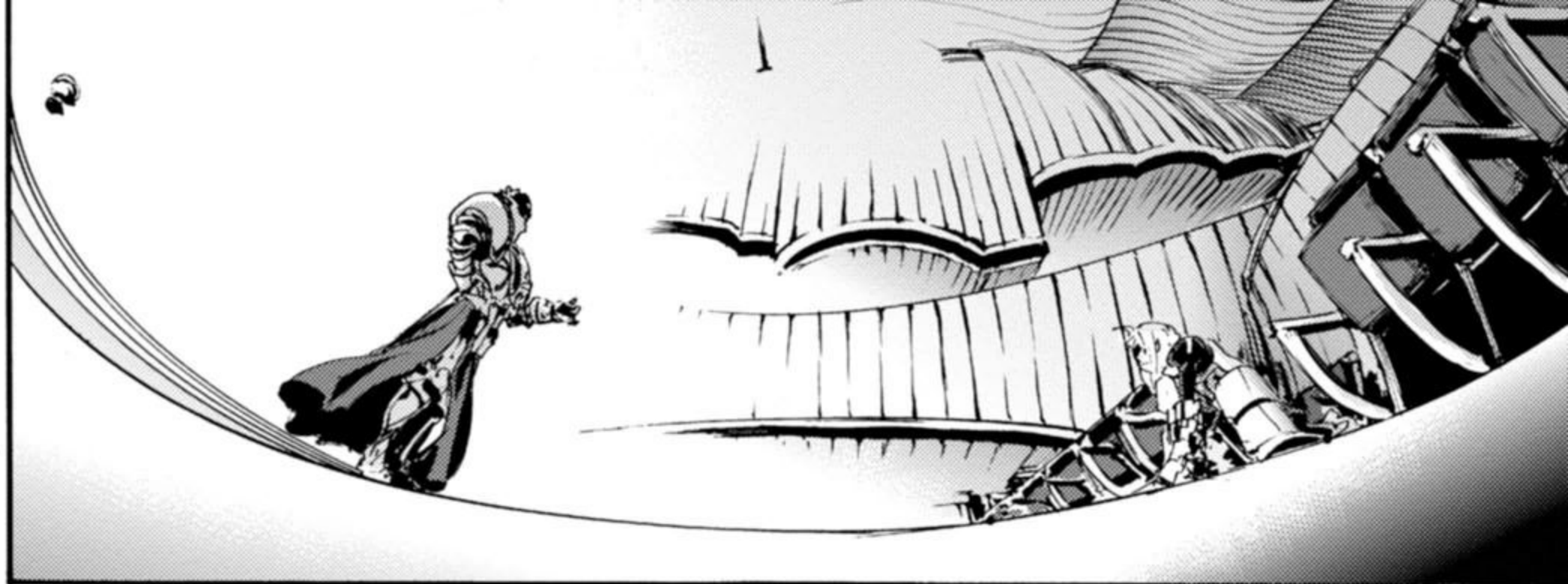


奇跡を叶える  
聖杯などと  
そんな胡乱なモノに  
執着する理由など  
見当たらぬ



剣を棄て  
我が妻となれ





何の  
つもり  
だ!?

……な……  
馬鹿な  
……



理解できず  
とも歓喜は  
できよう?

他ならぬ  
この我が  
お前の価値を  
認めたのだ

これより先は  
我のみを求め  
我のみの色で  
染まるがいい

下らぬ理想も  
誓いとやらも  
すべて棄てよ

そのようなモノは  
ただお前を縛り  
損なうだけだ



さすれば  
万象の王の名の下に  
この世の快と悦の  
すべてを賜わそう

貴様は  
そんな……

……ッ

そんな戯れ事の  
ために私の聖杯を  
奪うのか!?

お前の  
意思など  
訊いていない

これは我の  
下した決定だ



さあ  
返答を聞こう  
ではないか

問うまでもなく  
決した答えでは  
あるが――

お前がどんな顔で  
ソレを口にする  
のかは見物だ

ツ……

断じて――

断る！





ぐああああつ！

恥じらう  
あまり言葉に  
詰まるか？

良いぞ

何度  
言い違えよう  
とも許す

我に尽くす  
喜びを知るには  
まず痛みを以て  
学ぶべきだからな





それでは何の  
意味もない

アーチャーは  
それを見越して  
あの場所に  
立っている

クツ……  
どうすれば



自滅覚悟でありつただけの  
余力を動員すれば  
「約束された勝利の剣」を  
放つだけの魔力は何とか  
賄えるかもしれない

だがこの位置からでは  
たとえアーチャーを  
仕留められても  
背後の聖杯まで焼き  
尽くされてしまう





きりつぐ  
切嗣……

アーチャーは  
気づいていない！



そうだと  
奇跡に等しい  
不条理すら可能に  
するあの令呪が  
あれば……！

衛宮切嗣の  
名の下に  
令呪を以て  
セイバーに命ず

聖杯を保護しながら  
アーチャーに  
対抗しうる掩護が  
得られるならば  
たとえこの身が  
砕けようとも  
必ず応じてみせる！

アキハ！





.....な.....？









ちが... 違っ!!

ホッ  
ズッ...

何の  
つもりだ!?

な...  
馬鹿な!



きりつく  
切嗣

あなたにもよって  
貴方が何故ッ!?

なぜ  
何故だ!?

よもや  
令呪?





おのれ  
我が婚儀を  
邪魔立て  
するかッ

第三の令呪を  
以て重ねて命ず

雑種めが!



セイバー



……やめろ  
……ッ!





せいはい  
はかい  
聖杯を破壊しろ



















衛宮切嗣 えみやきりつぐ

娘と睦まじく  
戯れていた父親

妻が信じた夫

戦士 救世を願った

正義に絶望した  
殺人者

幾つもの矛盾する  
人間性を垣間見せて  
おきながら  
最後にその全てを  
裏切り否定した

結局私が彼について  
確かめられた  
ものといえは  
その冷酷さと非情さ  
だけでしかない



ついに最後まで  
解り合うことも  
信頼を築くことも  
なく――

否

むしろ最後の  
最後になつて  
彼の真意を  
見失つたのだ

だがそれも当然か……

たった三度の  
命令だけしか縁の  
なかつた男について  
いったい何が  
見抜けただろうか

かつてもっと身近に  
仕えてくれた者たちの  
心すら見通せなかつた  
というのに

すべては“人の気持ちが分からない王”に  
科せられた罰だったのかもしれない





私はまた  
この場所に  
戻ってきて  
しまった



すべてが契約の  
瞬間のまま

血に染まった  
このカムランの丘に



私はこの結末を  
変えるために  
奇跡を求めて  
旅立ったはず

なのに私は  
またこの場所に  
膝を落としている



今際のきわに  
『世界』と契約を交わし  
死後の魂を守護者として  
差し出す代わりに  
聖杯を手にする  
手段をとりつけた

聖杯を手にするまで  
私は何度も  
聖杯戦争に動員され  
何度でもこの場所に  
呼び戻される

まずは  
その二巡目を

たった  
今

果たし  
終わった  
だけ……

いつの日も  
正しく在った

誇りに懸けて  
そう信じていた

にも拘らず  
私はこのような  
滅びに至る萌芽を  
見過ごした  
ランスロットの  
そしてギネヴィアの  
苦悩を見過ごしたのと  
同様に



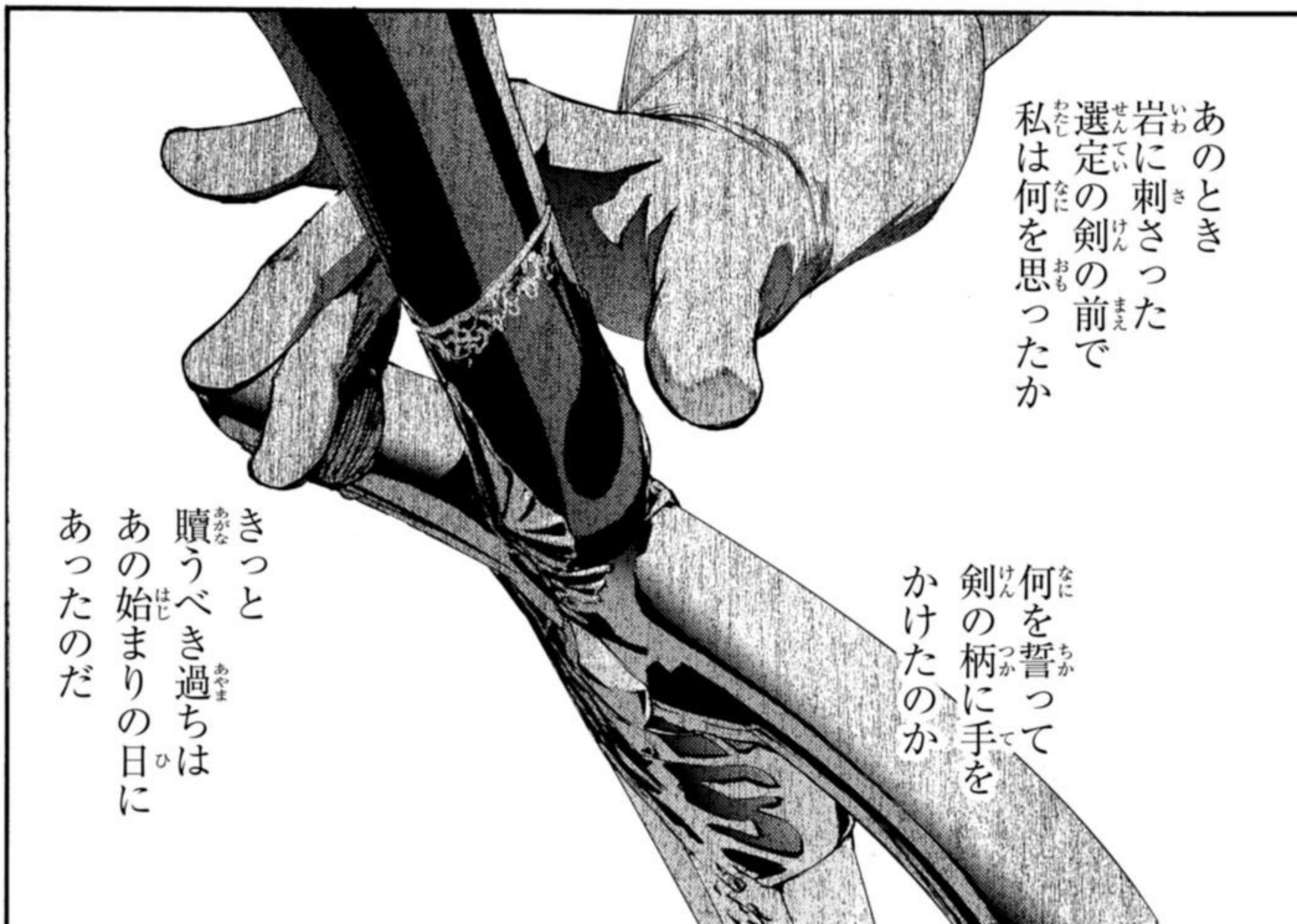


その不明が  
私自身にとつても  
また不明である限り  
それがアルトリア  
という王の限界

だとすればこの惨状は  
運命の気まぐれではなく  
私の治世の果てにある  
必定の結末なのだろう



ぐ……



あのとき  
岩に刺さった  
選定の剣の前で  
私は何を思ったか

何を誓って  
剣の柄に手を  
かけたのか

きつと  
贖うべき過ちは  
あの始まりの日に  
あったのだ



……いめん……

なさい……

ごめんなさい……

ごめんなさい……





私が……

私なんか  
王になつたから……ッ

ごめん……なさい……



Fate  
フェイト/ゼロ

Zero

Staff/ 山高守人、夏目りく



N E X T F a t e / Z e r o

『この世<sup>ア</sup>全て<sup>ン</sup>の悪<sup>マ</sup>』





絶望  
聖杯から溢れ出した泥が



希望  
すべての命を消し去る



そして物語は始まりへと至る——  
**Fate/Zero次巻完結!!**

⑭ 卷 2 0 1 7 年 発 売 予 定



角川コミックス・エース

# Fate/Zero(13)

漫画:真じろう

原作:虚淵玄(ニトロプラス) / TYPE-MOON

---

2016年12月31日 発行

©Shinjiro 2016

©Nitroplus/TYPE-MOON

本電子書籍は下記にもとづいて制作しました  
角川コミックス・エース『Fate/Zero(13)』  
2016年12月31日初版発行

発行者 青柳昌行

発行 株式会社KADOKAWA

〒102-8177 東京都千代田区富士見2-13-3

電話 0570-002-301 (カスタマーサポート・ナビダイヤル)

受付時間 9:00～17:00(土日 祝日 年末年始を除く)

編集企画 コミック&キャラクター局

ヤングエース編集部

<http://www.kadokawa.co.jp/>

本作品の全部または一部を無断で複製、転載、配信、送信したり、  
ホームページ上に転載したりすることを禁止します。  
また、本作品の内容を無断で改変、改ざん等を行うことも禁止します。  
本作品購入時にご承諾いただいた規約により、有償・無償にかかわらず  
本作品を第三者に譲渡することはできません。  
本作品を示すサムネイルなどのイメージ画像は、再ダウンロード時に  
予告なく変更される場合があります。  
本作品の内容は、底本発行時の取材・執筆内容に基づきます。

また、ご覧になるリーディングシステムにより、表示の差が認められることがあります。

この物語はフィクションであり、実在の人物・団体とは関係がございません。

装幀・デザイン 和田幸男